

〈2024 年度入学者向け〉

早稲田大学大学院

教育学研究科の案内

(修士課程・博士後期課程)

目 次

I. 教育学研究科の構成と特徴

- 1. 教育学研究科の沿革 2
- 2. 教育学研究科の目的と構成（修士課程および博士後期課程） 3

II. 3つのポリシー／アセスメント・ポリシー（修士課程および博士後期課程）

- 1. ディプロマ・ポリシー 4
- 2. カリキュラム・ポリシー 6
- 3. アドミッション・ポリシー 6
- 4. アセスメント・ポリシー 7

III. 教育学研究科修士課程案内

- 1. 教育学研究科修士課程の構成と特徴 8
- 2. 2023年度設置の研究指導・授業科目・担当教員一覧 10
- 3. 履修方法（修士課程） 28
- 4. 教育職員免許状取得について 32

IV. 教育学研究科博士後期課程案内

- 1. 教育学研究科博士後期課程の構成と特徴 33
- 2. 2023年度設置の研究指導・演習・担当教員一覧 34
- 3. 履修方法（博士後期課程） 40

◆その他案内

- 1. 科目等履修生 44
- 2. 各種奨学金について 44

早 稲 田 大 学

※この冊子の内容は「2023年度大学院教育学研究科要項」から一部抜粋・再構成したものととなります。内容は2024年度に変更になる可能性があります。詳細は入学時に配付される、「2024年度大学院教育学研究科要項」を参照してください。

I. 教育学研究科の構成と特徴

1. 教育学研究科の沿革

教育学研究科は、1990 年度に修士課程を開設した、早稲田大学においては比較的新しい研究科です。開設時には、学校教育・国語教育・英語教育・社会科教育の各専攻からなる体制で出発しました。その基盤は、1903 年に創設された高等師範部を発展させた教育学部（1949 年設置）にあり、早稲田大学における教員養成、および教科にかかわる諸学の研究の長い伝統と実績の上に立脚した研究科です。

1995 年度には、教員養成系としては国内最初の博士後期課程（教育基礎学専攻・教科教育学専攻）を設置し、さらに 1998 年度には数学教育専攻（修士課程）を、2004 年度には現職教員などを受け入れる 1 年制の修士課程を加えました（1 年制修士は 2016 年度より募集停止）。2017 年度からは同じ教育・総合科学学術院内の大学院教職研究科を統合し、専門職学位課程である高度教職実践専攻（教職大学院）を設置しました。

このように教育学研究科は、高度な能力を持つ教員養成のみならず、教育・教科を支える諸学の専門的研究を深める研究者、広い意味での教育を通して社会に貢献する人材の育成を目的とし、優れた実績を上げてきました。同じ教育・総合科学学術院を構成する教育学部や教育総合研究所、教職支援センターとの連携のもとに、さらなる充実が図られ、教育基礎学、教員養成そしてそれを支える諸学が一体化した研究科として、国内における教育界の牽引的存在となっています。

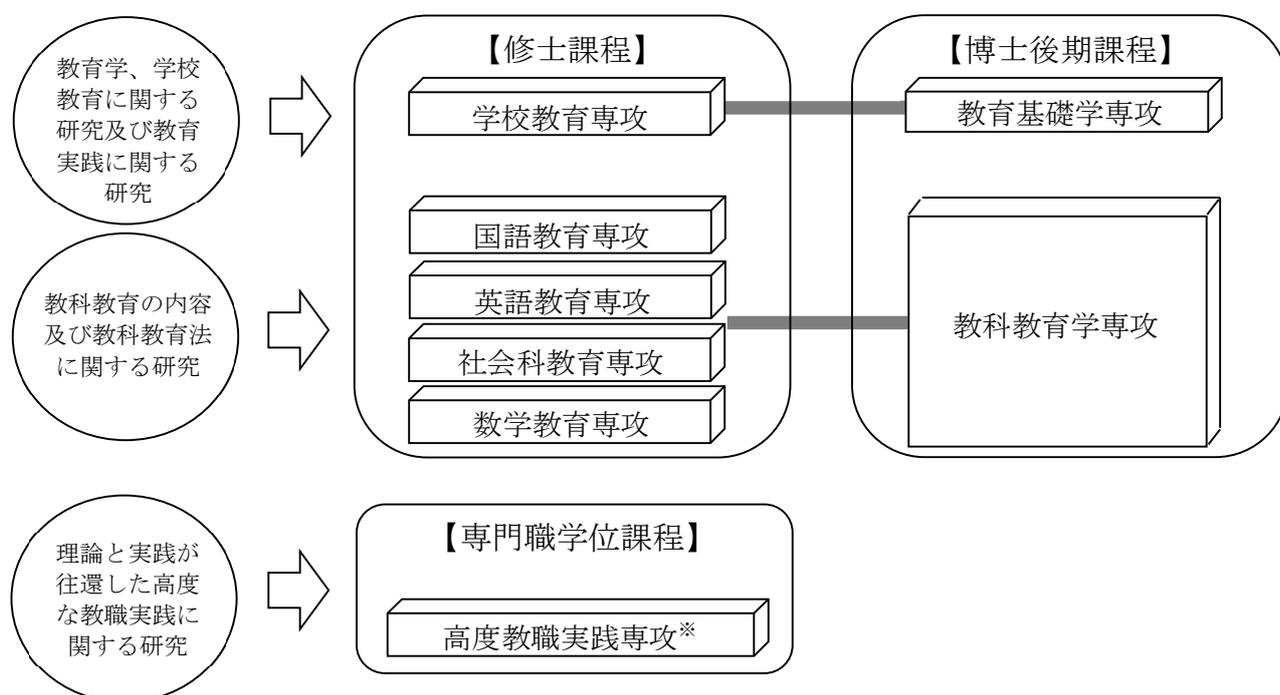
History

1990 年 3 月	大学院教育学研究科（学校教育・国語教育・英語教育・社会科教育の 4 専攻）の修士課程設置
1990 年 4 月	修士課程 1990 年度より学生募集開始
1990 年12 月	『教育学研究科紀要』創刊号発刊
1993 年 3 月	『教育学研究科紀要別冊』創刊号発刊
1995 年 3 月	博士後期課程（教育基礎学・教科教育学の 2 専攻）設置
1995 年 4 月	博士後期課程 1995 年度生より学生募集開始
1997 年12 月	数学教育専攻修士課程設置
1998 年 4 月	数学教育専攻修士課程 1998 年度生より学生募集開始
2003 年 4 月	1 年制修士課程設置
2004 年 4 月	1 年制修士課程 2004 年度生より学生募集開始（～2015 年度）
2007 年12 月	小学校専修免許 課程認定される（2008 年 4 月入学者より適用）
2009 年 2 月	韓国の高麗大学学校教育学科と学術交流協定を締結
2012 年 8 月	中国の北京師範大学教育学部と学術交流協定を締結
2017 年 4 月	大学院教職研究科を統合し、専門職学位課程である高度教職実践専攻（教職大学院）を設置

2. 研究科の目的と構成（修士課程および博士後期課程）

本研究科の設立目的は、教育諸科学の基礎的研究とそれを支える教科教育学の諸分野、さらに教科内容の基盤を支える諸科学の領域において、高度な能力を有する研究者および教員、さらに広い意味での教育を通して社会に貢献する人材を育成することにあります。同時に、現職教員および教育にかかわる分野で活躍している人のための多数の演習・講義科目が用意されていることも、大きな特徴となっています。

この目的を果たすため、研究指導の領域は、教育学、社会教育学、教育心理学、初等教育学という教育諸科学の基本的分野と共に、国語教育、英語教育、社会科教育、数学教育、そしてこれらを支える日本語学、国文学、英語学、言語学、応用言語学、イギリス文学、アメリカ文学、地理学、歴史学、政治学、経済学、社会学、メディア・コミュニケーション学、解析学、代数学、幾何学、情報数学、トポロジー、確率論、応用解析学という、極めて多岐にわたる分野に及びます。これだけ広い領域にわたる修士課程と博士後期課程を包含している研究科は、国内でも極めてユニークな存在であると言えます。



※2017年4月、教育・総合科学学術院に属する大学院教職研究科を高度教職実践専攻（教職大学院）として大学院教育学研究科に統合。詳細に関しましては、教職大学院のパフレットをご参照ください。

【学位】

本研究科で取得できる修士の学位は以下のとおりです。

専攻	取得できる学位
学校教育専攻 国語教育専攻 英語教育専攻 社会科教育専攻	修士（教育学）
数学教育専攻	修士（教育学）、修士（理学）

本研究科で取得できる博士の学位は以下のとおりです。

専攻	取得できる学位
教育基礎学専攻	博士（教育学）または博士（学術）
教科教育学専攻	博士（教育学）、博士（学術）または博士（理学）

II. 3つのポリシー／アセスメント・ポリシー（修士課程および博士後期課程）

1. ディプロマ・ポリシー

早稲田大学の総合性・独創性を生かし、体系的な教育課程と、全学的な教育環境と学生生活環境のもとに、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地球社会に主体的に貢献できる人材を育成する。

教育学研究科は本学教育学部の各学科を基盤としており、修士課程5専攻、博士後期課程は2専攻で構成されている。修士課程を修了するためには、通常2年以上在学し、各専攻設置科目を中心に授業科目を32単位以上修得し、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査に合格しなければならない。本研究科で取得できる修士学位は、学校教育・国語教育・英語教育・社会科教育専攻では修士（教育学）、数学教育専攻では修士（教育学）または修士（理学）である。

さらに、博士後期課程では3年以上在学し、所要の研究指導を受けたうえ、博士論文の審査および試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。授与する学位は、教育基礎学専攻では博士（教育学）または博士（学術）、教科教育学専攻では博士（教育学）、博士（学術）または博士（理学）となっている。

以上のように本研究科では、各専攻における高度な専門性と実践性、さらには豊かな人間性や社会貢献性を兼ね備えた、教育界におけるリーダーや研究者を育成し、それにふさわしい修士学位と博士学位を授与しようとしている。

修士課程においては修士論文審査基準、博士後期課程においては博士論文審査基準を満たす学修成果を満たしたものに学位を授与する。

（修士課程論文審査基準）

修士論文の審査にあたっては、その論文が修士の学位に相当する学術的意義および独創性を有し、適切な方法により研究が進められているかどうか、また学位申請者が修士の学位に相当する研究立案・遂行能力、論理的構成・説明能力、高度な専門的学識を有しているかどうかについて判断する。具体的な審査基準は、次の通りである。

1. 学術的意義および独創性

修士論文は、学術的・社会的意義を有する内容であること。また、新たな事実の発見や既存の研究の発展などによる独創性と、今後の発展性を有しているものであること。

2. 研究立案・遂行能力

修士論文の研究方法は、研究テーマや先行研究の十分な分析に基づいて選定された、研究目的を達成するうえで妥当なものであること。また、学術研究倫理の理解と遵守に基づいて研究を立案・遂行するものであること。

3. 論理的構成・説明能力

修士論文の内容は、研究テーマに関する合理的な論述の展開、論拠の提示、推論の構築と主張の展開をし、それによる説得力のある結論を提示するものであること。

（博士課程論文審査基準）

博士論文の審査にあたっては、その論文が学術的意義および独創性を有し、適切な方法により研究が進められているかどうか、また学位申請者が研究立案・遂行能力、論理的構成・説明能力、高度な専門的学識を有しているかどうかについて判断する。具体的な審査基準は、次の通りである。

1. 学術的意義および独創性

博士論文は、当該の学術分野の進展に寄与し、学術的・社会的意義を有する内容であること。また、新たな事実の発見や既存の研究の発展などによる独創性と、今後の発展性を有しているものであること。

2. 研究立案・遂行能力と研究方法の適切性

博士論文は、論文全体を通して研究テーマを一貫して探究するもので、その理論的根拠を明確にすることであること。研究方法は研究テーマや先行研究の十分な分析に基づいて選定された、研究目的を達成するうえで妥当なものであること。また、学術研究倫理の理解と遵守に基づいて研究を立案・遂行するものであること。

3. 論理的構成・説明能力

博士論文は、論文全体を構成する個々の論考の間に整合性が必要であり、複数の個別論文を集めた論文集でないこと。また、その内容は研究テーマに関する合理的な論述の展開、論拠の提示、推論の構築と主張の展開をし、それによる説得力のある結論を提示するものであること。

4. 高度な専門的学識

学位申請者は、今後、当該研究分野やその他の研究分野における自立した研究者としての活動が可能な、本研究科の博士学位取得者にふさわしい高度な専門的学識を有していること。

上記を踏まえ、大学院教育学研究科（修士課程・博士後期課程）では、修了時に身に付けておくべき能力を以下のように定める。

学修成果1 高度な専門性と実践性、さらには豊かな人間性や社会貢献性を兼ね備えている。

学修成果2 下表に関する分野および学生本人の研究分野において、修士課程の学生は修士課程論文審査基準に定める事項を、博士後期課程の学生は博士課程論文審査基準に定める事項を身に付けている。

学位：専攻	研究指導分野
修士（教育学）：学校教育専攻	教育学、教育史、教育哲学、教育内容・方法、学校経営学、比較教育学、教育行財政学、教育工学、初等教育学、臨床心理学、教育評価・測定、障害・神経心理学、学校心理学、発達・教育心理学、特別支援教育学、教育社会学、社会教育学、生涯教育学
修士（教育学）：国語教育専攻	国語科教育、日本語学、国文学
修士（教育学）：英語教育専攻	英語科教育、英語学、イギリス文学、アメリカ文学
修士（教育学）：社会科教育専攻	社会科教育、歴史学、地理学、政治学、経済学、社会学、メディア・コミュニケーション学
修士（教育学）：数学教育専攻	数学科教育
修士（理学）：数学教育専攻	解析学、解析学・応用解析学、代数学、幾何学、情報数学、確率論、トポロジー

学位：専攻	研究指導分野
博士（教育学）：教育基礎学専攻	教育学、初等教育学、教育心理学、社会教育学
博士（学術）：教育基礎学専攻	教育学、初等教育学、教育心理学、社会教育学
博士（教育学）：教科教育学専攻	国語科教育学、国語科内容学、英語科教育学、英語科内容学、社会科教育学、社会科内容学、数学科教育学
博士（理学）：教科教育学専攻	数学科内容学
博士（学術）：教科教育学専攻	国語科教育学、国語科内容学、英語科教育学、英語科内容学、社会科教育学、社会科内容学、数学科教育学、数学科内容学

学修成果3 構想・構築力：進取の精神を持って、伝統の殻を破る新しい概念を構築する力を身に付けている。

学修成果4 健全な批判精神：社会および自然界の事象を多面的に捉え、既存の問題設定や解を健全に批判し、建設的な提案を行う姿勢を身に付けている。

2. カリキュラム・ポリシー

本研究科の修士課程は学校教育・国語教育・英語教育・社会科教育・数学教育の5専攻から構成されており、各専攻の専門領域に即して研究指導、演習、特論を設け、学術的・社会的意義を有する内容、新たな事実の発見や既存の研究の発展などによる独創性並びに今後の発展性を有する修士論文の完成を目指している。

学位：専攻	研究指導分野
修士（教育学）：学校教育専攻	教育学、教育史、教育哲学、教育内容・方法、学校経営学、比較教育学、教育行財政学、教育工学、初等教育学、臨床心理学、教育評価・測定、障害・神経心理学、学校心理学、発達・教育心理学、特別支援教育学、教育社会学、社会教育学、生涯教育学
修士（教育学）：国語教育専攻	国語科教育、日本語学、国文学
修士（教育学）：英語教育専攻	英語科教育、英語学、イギリス文学、アメリカ文学
修士（教育学）：社会科教育専攻	社会科教育、歴史学、地理学、政治学、経済学、社会学、メディア・コミュニケーション学
修士（教育学）：数学教育専攻	数学科教育
修士（理学）：数学教育専攻	解析学、解析学・応用解析学、代数学、幾何学、情報数学、確率論、トポロジー

それに加えて、幅広い教育学や教科に関する専門性を培うため、共通選択科目、自由選択科目を設けている。また、交流学生として慶應義塾大学大学院文学研究科・社会学研究科の科目を8単位まで取得できるほか、他専攻設置の選択科目、他研究科設置の科目なども履修できるよう配慮している。この他、学部段階の学科目を随意科目として履修することもでき、希望者は新規に小学校教諭免許状を取得することも可能である。

以上のように修士課程においては、各専攻の専門性や実践力を幅広く習得できるよう、幅広い科目履修が可能となるようなカリキュラムを編成している。

また博士後期課程では、各専攻の研究指導に加えて、幅の狭い専門性に陥ることなく、複合的な視野で研究を深める能力を形成させることを目的として、自己の研究指導教員以外の指導を受ける「複合履修」を推奨し、当該の学術分野の進展に寄与しかつ学術的・社会的意義を有する内容、新たな事実の発見や既存の研究の発展などによる独創性と、今後の発展性を有する博士論文の完成を目指している。

学位：専攻	研究指導分野
博士（教育学）：教育基礎学専攻	教育学、初等教育学、教育心理学、社会教育学
博士（学術）：教育基礎学専攻	教育学、初等教育学、教育心理学、社会教育学
博士（教育学）：教科教育学専攻	国語科教育学、国語科内容学、英語科教育学、英語科内容学、社会科教育学、社会科内容学、数学科教育学
博士（理学）：教科教育学専攻	数学科内容学
博士（学術）：教科教育学専攻	国語科教育学、国語科内容学、英語科教育学、英語科内容学、社会科教育学、社会科内容学、数学科教育学、数学科内容学

3. アドミッション・ポリシー

早稲田大学では、「学問の独立」の教育理念のもとで、一定の高い基礎学力を持ち、かつ知的好奇心が旺盛で、本学の理念である進取の精神に富む、勉学意欲の高い学生を、わが国をはじめ世界から多数迎え入れている。

教育学研究科の目的は、第1に教育諸科学の基礎的研究とそれを支える教科教育学の諸分野、さらには教科内容の基盤を支える諸科学の領域において、高度な能力を有する研究者を育成することにある。第2に、教員を始めたとする教育に関する諸分野における高度な専門性を備えた職業人を育成するとともに、学校・社会教育・教育行政機関などの職務経験者の再教育を目的としている。

以上のような教育目的に即し、学問的探究心や教職への強い意欲をもつ志願者を積極的に受け入れるため、本研究科では多様な種類の入試制度を設けている。すなわち、修士課程においては、推薦入試、一般入試に加えて、職務経験者を対象にした特別選考制度入試を実施している。これらの入試においては、受験者の属性に対応して能力を測定できるよう、試験科目や内容に配慮している。さらに、博士後期課程においても、一般入試の他、教員などの職務経験者を対象とした専門職業人入試を行っている。この他、海外の大学から入学を希望する者のために外国人入試制度も設けている。

4. アセスメント・ポリシー

下表に記載の測定方法を用いて、ディプロマ・ポリシーに定める学修成果が身につけているかの測定を行う。

学修成果	測定方法	測定時期
1. 高度な専門性と実践性、さらには豊かな人間性や社会貢献性を兼ね備えている。	(直接評価) ①科目履修状況 ②指導教員以外の指導状況 ③進路情報	①1～2年(博士後期課程は1～3年)次 ②1～2年(博士後期課程は1～3年)次 ③修了時
2. ディプロマ・ポリシーに定める学生の研究分野において、修士課程の学生は修士課程論文審査基準に定める事項を、博士後期課程の学生は博士課程論文審査基準に定める事項を身につけている。	(直接評価) ①修士論文・博士論文の評価 ②修了生(博士後期課程は研究指導修了退学含む)の人数 ③博士学位取得者数	①修了時 ②修了または退学時 ③修了時
3. 構想・構築力：進取の精神を持って、伝統の殻を破る新しい概念を構築する力を身につけている。	(直接評価) ①修士論文・博士論文の評価 ②修了生(博士後期課程は研究指導修了退学含む)の人数 ③博士学位取得者数	①修了時 ②修了または退学時 ③修了時
4. 学問研究に裏打ちされた批判精神：社会および自然界の事象を多面的に捉え、既存の問題設定や解を学問的に批判し、提案を行う姿勢を身につけている。	(直接評価) ①修士論文・博士論文の評価 ②修了生(博士後期課程は研究指導修了退学含む)の人数 ③博士学位取得者数	①修了時 ②修了または退学時 ③修了時

Ⅲ. 教育学研究科修士課程案内

1. 教育学研究科修士課程の構成と特徴

修士課程は、学校教育専攻、国語教育専攻、英語教育専攻、社会科教育専攻、数学教育専攻の5専攻から構成されています。これらの各専攻は、「教育学」と「総合科学」の両輪からなる本学教育学部の教育学科、国語国文学科、英語英文学科、社会科、数学科の各学科を基盤としています。

修士課程は、その目的を達成するために、以下の事項に重点を置いています。

- a. 教育諸科学および教科教育学についての研究
- b. 教科内容を支える諸学についての研究
- c. 初等・中等教育学校の教員、特に高等学校教員にふさわしい高度の専門教育
- d. 学校・社会教育・教育行政機関の職務経験者の再教育

上記d.については、現職教員の場合、在職のまま大学院の教育を受けることができるよう、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例による教育を実施しています。各専攻の教育目標は、以下のとおりです。

a. 学校教育専攻

学校教育専攻は、本大学教育学部教育学科教育学専攻の3専修（教育学専修、生涯教育学専修、教育心理学専修）および初等教育学専攻を母体としてカリキュラム配置を行い、より高度な専門的力量を備えた初等・中等教育学校の教員養成・研修ならびに生涯教育の専門家養成を基本的な使命とする専攻です。

したがって、本専攻は、学校あるいは社会における教育現場の要請に応じうる人材の育成、ならびに現職教員の研修とその理論的研究をねらいとしています。そのために、カリキュラムは、教育実践と教育理論の密接な連携を考慮して組まれており、より高度な教育学的専門知識の涵養はもとより、教育現場での諸課題への対応と展望がはかられるよう、演習、研究指導等において工夫がなされています。また、本専攻の講義には、研究科内の他専攻の大学院生も参加して教育学的学識を深めるよう履修要項が定められています。

教師教育を主目的の一つとする本専攻は、学校教育に関する実践的・理論的な専門科目が重点的に配当されているところに特色があります。

b. 国語教育専攻

国語教育専攻は、国語教育界への人材の育成に貢献して来た本大学教育学部国語国文学科、および現職教員の再教育に貢献してきた専攻科（国語国文学専攻科）の歴史の上に立って、新しい時代に望まれるより高度な学識と実践力を備えた国語教育の実践者ならびに専門研究者の育成を目標としています。

本専攻では、以上の見地から、国語科教育、日本語学、国文学、中国古典文学の四つの分野を設定し、各自が選んだ専門分野の研究を演習と研究指導によって深めるとともに、講義科目を履修することによって隣接分野を学ぶことを通じて、わが国の今後の国語教育界をはじめとして、さまざまな専門分野で活躍し得る高度の専門性を身につけることができます。

また、本専攻では、日本語教育のためのカリキュラムを用意し、日本語教師たろうとする者のためにも道を開いています。

c. 英語教育専攻

英語教育専攻は、新しい時代に望まれる、より高度な識見と力量を持った英語教育の実践者、研究者、ならびに英語の専門的知識と異文化への理解の上に幅広い分野でグローバルに活躍できる人材の育成を目標としています。学生は英語科教育、英語科内容学（理論言語学・応用言語学）、英文学・文化、米文学・文化、の4分野において各自が選んだ専門分野を中心とした演習と研究指導、また隣接分野の科目の履修により研究を深めます。英語教育に関連する社会言語学、心理言語学、英米文化研究、また、教育を中心とした応用言語学的な面にも重点を置くことにより、今後の英語教育およびその関連分野で幅広く貢献できる人材の育成をめざします。

d. 社会科教育専攻

社会科教育専攻は、社会科教育の人材育成に貢献してきた本学教育学部社会科の歴史のうえに立って、新しい時代に望まれる高度な見識と力量を持った社会科教育の実践者ならびに専門研究者の育成を目指すと同時に、社会一般が求める職業人の育成にも貢献することを目的としています。

本専攻では、社会認識に関する学問分野のなかから、社会科教育、歴史学、地理学、政治学、経済学、社会学、メディア・コミュニケーション学という7つの専門分野を設定しています。入学者は、まず、専門の演習と研究指導を受講することを通じて、各自が選んだ専門分野の研究を深く掘り下げて学び、具体的な研究方法論を会得し、優れた修士論文を作成することを目指します。しかし、それと同時に、各自の専門以外の隣接学問分野の多様な講義も積極的に受講することにより、知的視野を拡大し、総合的な知見を養うことも期待されています。このような専門研究の見識と総合的教養とを併せ持ち、今後のわが国の社会科教育のみならず、さまざまな分野で広く将来を担うことのできる人材を育成することが、本専攻の教育の目標となっています。

e. 数学教育専攻

数学教育専攻は、数学教育をはじめとする多方面で活躍する人材の育成に貢献してきた本大学教育学部数学科の歴史の上に立って1998年に開設されました。それ以来、教育にかかわる総合的な見識と高度な専門的能力を備え、主として高等学校での数学教育において指導的な役割を果たすことのできる研究的実践者としての教員の養成および専門的数学能力を必要とする研究機関・企業で働く人材の育成を目的としています。

本専攻では、数学教育学、解析学、代数学、幾何学、情報数学、トポロジー、確率論、応用解析学の8つの基本的な分野を設定し、コンピュータの理論・実習を含めてこれらの分野の専門教育と研究を行っています。入学者には、各自が選んだ専門分野を中核として研究を深めさせるとともに関連分野への学識をも広く学ばせ、演習と研究指導を通し数理的思考能力を養い、それを活用できるように指導します。これをもってわが国の今後の数学教育・数学研究に貢献できる人物を育成することを期しています。

2. 2023年度設置の研究指導・授業科目・担当教員一覧

※担当教員は、2024年度に交替する場合があります。

〔修士課程〕

(1) 学校教育専攻

研究指導

科目名	単位	年次	担当者
教育学研究指導 (M-1)	0	1	藤井 千春
教育学研究指導 (M-2)	0	1	
教育史研究指導 (M-1)	0	1	三上 敦史
教育史研究指導 (M-2)	0	1	
教育哲学研究指導 (M-1)	0	1	坂倉 裕治
教育哲学研究指導 (M-2)	0	1	
教育内容・方法研究指導 (M-1)	0	1	根津 朋実
教育内容・方法研究指導 (M-2)	0	1	
学校経営学研究指導 (M-1)	0	1	菊地 栄治
学校経営学研究指導 (M-2)	0	1	
教育行財政学研究指導 (M-1)	0	1	小松 茂久
教育行財政学研究指導 (M-2)	0	1	
教育工学研究指導 (M-1)	0	1	三尾 忠男
教育工学研究指導 (M-2)	0	1	
初等教育学研究指導 (M-1)	0	1	河村 茂雄
初等教育学研究指導 (M-2)	0	1	
初等教育学研究指導 (M-1)	0	1	佐藤 隆之
初等教育学研究指導 (M-2)	0	1	
初等教育学研究指導 (M-1)	0	1	小林 宏己
初等教育学研究指導 (M-2)	0	1	
初等教育学研究指導 (M-1)	0	1	大泉 義一
初等教育学研究指導 (M-2)	0	1	
臨床心理学研究指導 (M-1)	0	1	堀 正士
臨床心理学研究指導 (M-2)	0	1	
教育評価・測定研究指導 (M-1)	0	1	椎名 乾平
教育評価・測定研究指導 (M-2)	0	1	
障害・神経心理学研究指導 (M-1)	0	1	坂爪 一幸
障害・神経心理学研究指導 (M-2)	0	1	
学校心理学研究指導 (M-1)	0	1	本田 恵子
学校心理学研究指導 (M-2)	0	1	
発達・教育心理学研究指導 (M-1)	0	1	上淵 寿
発達・教育心理学研究指導 (M-2)	0	1	
特別支援教育学研究指導 (M-1)	0	1	梅永 雄二
特別支援教育学研究指導 (M-2)	0	1	
教育社会学研究指導 (M-1)	0	1	吉田 文
教育社会学研究指導 (M-2)	0	1	
社会教育学研究指導 (M-1)	0	1	小林 敦子
社会教育学研究指導 (M-2)	0	1	
社会教育学研究指導 (M-1)	0	1	前田 耕司
社会教育学研究指導 (M-2)	0	1	
社会教育学研究指導 (M-1)	0	1	矢口 徹也
社会教育学研究指導 (M-2)	0	1	
社会教育学研究指導 (M-1)	0	1	坂内 夏子
社会教育学研究指導 (M-2)	0	1	
生涯教育学研究指導 (M-1)	0	1	濱中 淳子
生涯教育学研究指導 (M-2)	0	1	

演 習

科目名	単位	年次	担当者
教育学演習 (M1-1)	2	1	藤井 千春
教育学演習 (M1-2)	2	1	
教育学演習 (M2-1)	2	2	
教育学演習 (M2-2)	2	2	
教育史演習 (M1-1)	2	1	三上 敦史
教育史演習 (M1-2)	2	1	
教育史演習 (M2-1)	2	2	
教育史演習 (M2-2)	2	2	
教育哲学演習 (M1-1)	2	1	坂倉 裕治
教育哲学演習 (M1-2)	2	1	
教育哲学演習 (M2-1)	2	2	
教育哲学演習 (M2-2)	2	2	
教育内容・方法演習 (M1-1)	2	1	根津 朋実
教育内容・方法演習 (M1-2)	2	1	
教育内容・方法演習 (M2-1)	2	2	
教育内容・方法演習 (M2-2)	2	2	
学校経営学演習 (M1-1)	2	1	菊地 栄治
学校経営学演習 (M1-2)	2	1	
学校経営学演習 (M2-1)	2	2	
学校経営学演習 (M2-2)	2	2	
教育行財政学演習 (M1-1)	2	1	小松 茂久
教育行財政学演習 (M1-2)	2	1	
教育行財政学演習 (M2-1)	2	2	
教育行財政学演習 (M2-2)	2	2	
教育工学演習 (M1-1)	2	1	三尾 忠男
教育工学演習 (M1-2)	2	1	
教育工学演習 (M2-1)	2	2	
教育工学演習 (M2-2)	2	2	
初等教育学演習 (M1-1) ※1	2	1	河村 茂雄
初等教育学演習 (M1-2) ※1	2	1	
初等教育学演習 (M2-1) ※1	2	2	
初等教育学演習 (M2-2) ※1	2	2	
初等教育学演習 (M1-1)	2	1	佐藤 隆之
初等教育学演習 (M1-2)	2	1	
初等教育学演習 (M2-1)	2	2	
初等教育学演習 (M2-2)	2	2	
初等教育学演習 (M1-1)	2	1	小林 宏己
初等教育学演習 (M1-2)	2	1	
初等教育学演習 (M2-1)	2	2	
初等教育学演習 (M2-2)	2	2	
初等教育学演習 (M1-1)	2	1	大泉 義一
初等教育学演習 (M1-2)	2	1	
初等教育学演習 (M2-1)	2	2	
初等教育学演習 (M2-2)	2	2	
臨床心理学演習 (M1-1) ※1	2	1	堀 正士
臨床心理学演習 (M1-2) ※1	2	1	
臨床心理学演習 (M2-1) ※1	2	2	
臨床心理学演習 (M2-2) ※1	2	2	

科目名	単位	年次	担当者
教育評価・測定演習 (M1-1) ※1	2	1	椎名 乾平
教育評価・測定演習 (M1-2) ※1	2	1	
教育評価・測定演習 (M2-1) ※1	2	2	
教育評価・測定演習 (M2-2) ※1	2	2	
障害・神経心理学演習 (M1-1) ※1	2	1	坂爪 一幸
障害・神経心理学演習 (M1-2) ※1	2	1	
障害・神経心理学演習 (M2-1) ※1	2	2	
障害・神経心理学演習 (M2-2) ※1	2	2	
学校心理学演習 (M1-1) ※1	2	1	本田 恵子
学校心理学演習 (M1-2) ※1	2	1	
学校心理学演習 (M2-1) ※1	2	2	
学校心理学演習 (M2-2) ※1	2	2	
発達・教育心理学演習 (M1-1) ※1	2	1	上淵 寿
発達・教育心理学演習 (M1-2) ※1	2	1	
発達・教育心理学演習 (M2-1) ※1	2	2	
発達・教育心理学演習 (M2-2) ※1	2	2	
特別支援教育学演習 (M1-1) ※1	2	1	梅永 雄二
特別支援教育学演習 (M1-2) ※1	2	1	
特別支援教育学演習 (M2-1) ※1	2	2	
特別支援教育学演習 (M2-2) ※1	2	2	
教育社会学演習 (M1-1)	2	1	吉田 文
教育社会学演習 (M1-2)	2	1	
教育社会学演習 (M2-1)	2	2	
教育社会学演習 (M2-2)	2	2	
社会教育学演習 (M1-1)	2	1	小林 敦子
社会教育学演習 (M1-2)	2	1	
社会教育学演習 (M2-1)	2	2	
社会教育学演習 (M2-2)	2	2	
社会教育学演習 (M1-1)	2	1	前田 耕司
社会教育学演習 (M1-2)	2	1	
社会教育学演習 (M2-1)	2	2	
社会教育学演習 (M2-2)	2	2	
社会教育学演習 (M1-1)	2	1	矢口 徹也
社会教育学演習 (M1-2)	2	1	
社会教育学演習 (M2-1)	2	2	
社会教育学演習 (M2-2)	2	2	
社会教育学演習 (M1-1)	2	1	坂内 夏子
社会教育学演習 (M1-2)	2	1	
社会教育学演習 (M2-1)	2	2	
社会教育学演習 (M2-2)	2	2	
生涯教育学演習 (M1-1)	2	1	濱中 淳子
生涯教育学演習 (M1-2)	2	1	
生涯教育学演習 (M2-1)	2	2	
生涯教育学演習 (M2-2)	2	2	

※1 聴講料7,500円がかかります。

選択科目

科目名	単位	年次	担当者
教育学特論 A	2	1	<休講>
教育学特論 B	2	1	藤井 千春
教育史特論 A	2	1	三上 敦史
教育史特論 B	2	1	<休講>
教育哲学特論 A	2	1	<休講>
教育哲学特論 B	2	1	坂倉 裕治
教育内容・方法特論 A	2	1	<休講>
教育内容・方法特論 B	2	1	根津 朋実
学校経営学特論 A	2	1	<休講>
学校経営学特論 B	2	1	菊地 栄治
比較教育学特論 A	2	1	<休講>
比較教育学特論 B	2	1	<休講>
教育行財政特論 A	2	1	<休講>
教育行財政特論 B	2	1	小松 茂久
初等教育学特論 1 A (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	1	河村 茂雄
初等教育学特論 1 B (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	1	河村 茂雄
初等教育学特論 2 A	2	1	佐藤 隆之
初等教育学特論 2 B	2	1	<休講>
初等教育学特論 3 A	2	1	小林 宏己
初等教育学特論 3 B	2	1	<休講>
初等教育学特論 4 A	2	1	大泉 義一
初等教育学特論 4 B	2	1	<休講>
臨床心理学特論 A (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	1	堀 正士
臨床心理学特論 B (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	1	堀 正士
教育評価・測定特論 A	2	1	椎名 乾平
教育評価・測定特論 B	2	1	椎名 乾平
障害・神経心理学特論 A (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	1	坂爪 一幸
障害・神経心理学特論 B (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	1	坂爪 一幸
学校心理学特論 A (教育分野に関する理論と支援の展開)	2	1	本田 恵子
学校心理学特論 B (教育分野に関する理論と支援の展開)	2	1	本田 恵子
特別支援教育学特論 A (福祉分野に関する理論と支援の展開)	2	1	梅永 雄二
特別支援教育学特論 B (福祉分野に関する理論と支援の展開)	2	1	梅永 雄二
発達・教育心理学特論 A (教育分野に関する理論と支援の展開)	2	1	上淵 寿
発達・教育心理学特論 B (教育分野に関する理論と支援の展開)	2	1	<休講>
産業・労働心理学特論 A (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2	1	安達 智子
産業・労働心理学特論 B (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2	1	安達 智子
公認心理師心理実践実習 1 A ※2	2	1	梅永 雄二
			河村 茂雄
			越川 房子
			坂爪 一幸
			高橋 あつ子
			藤野 京子
			堀 正士
			本田 恵子
公認心理師心理実践実習 1 B ※2	2	1	梅永 雄二
			河村 茂雄
			越川 房子
			坂爪 一幸
			高橋 あつ子
			藤野 京子
			堀 正士
			本田 恵子

※2 聴講料7,500円がかかります。

科目名	単位	年次	担当者
公認心理師心理実践実習 2 A ※3	2	1	梅永 雄二
			河村 茂雄
			越川 房子
			坂爪 一幸
			高橋 あつ子
			藤野 京子
			堀 正士
			本田 恵子
公認心理師心理実践実習 2 B ※3	2	1	梅永 雄二
			河村 茂雄
			越川 房子
			坂爪 一幸
			高橋 あつ子
			藤野 京子
			堀 正士
			本田 恵子
教育社会学特論A	2	1	吉田 文
教育社会学特論B	2	1	<休講>
社会教育学特論 1 A	2	1	坂内 夏子
社会教育学特論 1 B	2	1	<休講>
社会教育学特論 2 A	2	1	矢口 徹也
社会教育学特論 2 B	2	1	<休講>
社会教育学特論 3 A	2	1	<休講>
社会教育学特論 3 B	2	1	米村 健司
社会調査	2	1	濱中 淳子
初等統計学A	2	1	上田 卓司
初等統計学B	2	1	上田 卓司
教育心理学	2	1	山森 光陽
教育リテラシー	2	1	本田 恵子 他
インクルーシブ教育における学級経営 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2	1	河村 茂雄 他
脳科学を活かしたインクルーシブ教育	2	1	荒川 信行 他
私学における特別支援教育	2	1	一ノ瀬 秀司 他
特別支援教育におけるIT実践演習	1	1	<休講>
家族理解と福祉工学 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2	1	本田 恵子 他
指導者養成講座 I	2	1	本田 恵子 他
指導者養成講座 I I	2	1	本田 恵子 他

※3 聴講料12,500円がかかります。

(2) 国語教育専攻

研究指導

科目名	単位	年次	担当者
国語科教育研究指導 (M-1)	0	1	幸田 国広
国語科教育研究指導 (M-2)	0	1	
国語科教育研究指導 (M-1)	0	1	菊野 雅之
国語科教育研究指導 (M-2)	0	1	
日本語学研究指導 (M-1)	0	1	松木 正恵
日本語学研究指導 (M-2)	0	1	
国文学研究指導 (M-1)	0	1	松本 直樹
国文学研究指導 (M-2)	0	1	
国文学研究指導 (M-1)	0	1	新美 哲彦
国文学研究指導 (M-2)	0	1	
国文学研究指導 (M-1)	0	1	福家 俊幸
国文学研究指導 (M-2)	0	1	
国文学研究指導 (M-1)	0	1	大津 雄一
国文学研究指導 (M-2)	0	1	
国文学研究指導 (M-1)	0	1	田淵 句美子
国文学研究指導 (M-2)	0	1	
国文学研究指導 (M-1)	0	1	内山 精也
国文学研究指導 (M-2)	0	1	
国文学研究指導 (M-1)	0	1	堀 誠
国文学研究指導 (M-2)	0	1	
国文学研究指導 (M-1)	0	1	石原 千秋
国文学研究指導 (M-2)	0	1	
国文学研究指導 (M-1)	0	1	金井 景子
国文学研究指導 (M-2)	0	1	
国文学研究指導 (M-1)	0	1	五味淵 典嗣
国文学研究指導 (M-2)	0	1	
国文学研究指導 (M-1)	0	1	和田 敦彦
国文学研究指導 (M-2)	0	1	

演習

科目名	単位	年次	担当者
国語科教育演習 (M1-1)	2	1	幸田 国広
国語科教育演習 (M1-2)	2	1	
国語科教育演習 (M2-1)	2	2	
国語科教育演習 (M2-2)	2	2	
国語科教育演習 (M1-1)	2	1	菊野 雅之
国語科教育演習 (M1-2)	2	1	
国語科教育演習 (M2-1)	2	2	
国語科教育演習 (M2-2)	2	2	
日本語学演習 (M1-1)	2	1	松木 正恵
日本語学演習 (M1-2)	2	1	
日本語学演習 (M2-1)	2	2	
日本語学演習 (M2-2)	2	2	
国文学演習 (古典文学) (M1-1)	2	1	松本 直樹
国文学演習 (古典文学) (M1-2)	2	1	
国文学演習 (古典文学) (M2-1)	2	2	
国文学演習 (古典文学) (M2-2)	2	2	
国文学演習 (古典文学) (M1-1)	2	1	新美 哲彦
国文学演習 (古典文学) (M1-2)	2	1	
国文学演習 (古典文学) (M2-1)	2	2	
国文学演習 (古典文学) (M2-2)	2	2	

科目名	単位	年次	担当者
国文学演習 (古典文学) (M1-1)	2	1	福家 俊幸
国文学演習 (古典文学) (M1-2)	2	1	
国文学演習 (古典文学) (M2-1)	2	2	
国文学演習 (古典文学) (M2-2)	2	2	
国文学演習 (古典文学) (M1-1)	2	1	大津 雄一
国文学演習 (古典文学) (M1-2)	2	1	
国文学演習 (古典文学) (M2-1)	2	2	
国文学演習 (古典文学) (M2-2)	2	2	
国文学演習 (古典文学) (M1-1)	2	1	田渊 旬美子
国文学演習 (古典文学) (M1-2)	2	1	
国文学演習 (古典文学) (M2-1)	2	2	
国文学演習 (古典文学) (M2-2)	2	2	
国文学演習 (中国古典文学) (M1-1)	2	1	内山 精也
国文学演習 (中国古典文学) (M1-2)	2	1	
国文学演習 (中国古典文学) (M2-1)	2	2	
国文学演習 (中国古典文学) (M2-2)	2	2	
国文学演習 (中国古典文学) (M1-1)	2	1	堀 誠
国文学演習 (中国古典文学) (M1-2)	2	1	
国文学演習 (中国古典文学) (M2-1)	2	2	
国文学演習 (中国古典文学) (M2-2)	2	2	
国文学演習 (近代文学) (M1-1)	2	1	石原 千秋
国文学演習 (近代文学) (M1-2)	2	1	
国文学演習 (近代文学) (M2-1)	2	2	
国文学演習 (近代文学) (M2-2)	2	2	
国文学演習 (近代文学) (M1-1)	2	1	金井 景子
国文学演習 (近代文学) (M1-2)	2	1	
国文学演習 (近代文学) (M2-1)	2	2	
国文学演習 (近代文学) (M2-2)	2	2	
国文学演習 (近代文学) (M1-1)	2	1	五味渊 典嗣
国文学演習 (近代文学) (M1-2)	2	1	
国文学演習 (近代文学) (M2-1)	2	2	
国文学演習 (近代文学) (M2-2)	2	2	
国文学演習 (近代文学) (M1-1)	2	1	和田 敦彦
国文学演習 (近代文学) (M1-2)	2	1	
国文学演習 (近代文学) (M2-1)	2	2	
国文学演習 (近代文学) (M2-2)	2	2	

選択科目

科目名	単位	年次	担当者
国語科教育特論 1	2	1	幸田 国広
国語科教育特論 2	2	1	坂口 京子
国語科教育特論 3	2	1	菊野 雅之
国語科教育特論 4	2	1	菊野 雅之
日本語教育特論 1	2	1	<休講>
日本語教育特論 2	2	1	<休講>
日本語教育特論 3	2	1	半田 淳子
日本語教育特論 4	2	1	半田 淳子
日本語教育特論 5	2	1	<休講>
日本語教育特論 6	2	1	<休講>
日本語学特論 1	2	1	<休講>
日本語学特論 2	2	1	<休講>
日本語学特論 3	2	1	仁科 明
日本語学特論 4	2	1	仁科 明
日本語学特論 5	2	1	笹原 宏之
日本語学特論 6	2	1	笹原 宏之
日本語学特論 7	2	1	<休講>
日本語学特論 8	2	1	<休講>
国文学特論 1 (古典文学)	2	1	内藤 明
国文学特論 2 (古典文学)	2	1	内藤 明
国文学特論 3 (古典文学)	2	1	新美 哲彦
国文学特論 4 (古典文学)	2	1	<休講>
国文学特論 5 (古典文学)	2	1	大津 雄一
国文学特論 6 (古典文学)	2	1	渡邊 裕美子
国文学特論 7 (古典文学)	2	1	井上 和人
国文学特論 8 (古典文学)	2	1	野村 亞住
国文学特論 9 (近代文学)	2	1	石原 千秋
国文学特論 1 0 (近代文学)	2	1	和田 敦彦
国文学特論 1 1 (近代文学)	2	1	金井 景子
国文学特論 1 2 (近代文学)	2	1	五味渕 典嗣
中国文学特論 1	2	1	内山 精也
中国文学特論 2	2	1	内山 精也
中国古典研究 1	2	1	井上 一之
中国古典研究 2	2	1	井上 一之
国文学特殊研究 1	2	1	<休講>
国文学特殊研究 2	2	1	<休講>
文献研究 1	2	1	佐々木 孝浩
文献研究 2	2	1	佐々木 孝浩

(3) 英語教育専攻

研究指導

科目名	単位	年次	担当者
英語科教育研究指導 (M-1)	0	1	澤木 泰代
英語科教育研究指導 (M-2)	0	1	
英語科教育研究指導 (M-1)	0	1	原田 哲男
英語科教育研究指導 (M-2)	0	1	
英語科教育研究指導 (M-1)	0	1	折井 麻美子
英語科教育研究指導 (M-2)	0	1	
英語科教育研究指導 (M-1)	0	1	オオガ- ボールドウィン ウィリアム
英語科教育研究指導 (M-2)	0	1	
英語科教育研究指導 (M-1)	0	1	佐々木 みゆき
英語科教育研究指導 (M-2)	0	1	
英語学研究指導 (M-1)	0	1	バックハウス ペート
英語学研究指導 (M-2)	0	1	
英語学研究指導 (M-1)	0	1	新川 清治
英語学研究指導 (M-2)	0	1	
英語学研究指導 (M-1)	0	1	久野 正和
英語学研究指導 (M-2)	0	1	
イギリス文学研究指導 (M-1)	0	1	木村 晶子
イギリス文学研究指導 (M-2)	0	1	
アメリカ文学研究指導 (M-1)	0	1	佐久間 由梨
アメリカ文学研究指導 (M-2)	0	1	

演習

科目名	単位	年次	担当者
英語科教育演習 (M1-1)	2	1	澤木 泰代
英語科教育演習 (M1-2)	2	1	
英語科教育演習 (M2-1)	2	2	
英語科教育演習 (M2-2)	2	2	
英語科教育演習 (M1-1)	2	1	原田 哲男
英語科教育演習 (M1-2)	2	1	
英語科教育演習 (M2-1)	2	2	
英語科教育演習 (M2-2)	2	2	
英語科教育演習 (M1-1)	2	1	折井 麻美子
英語科教育演習 (M1-2)	2	1	
英語科教育演習 (M2-1)	2	2	
英語科教育演習 (M2-2)	2	2	
英語科教育演習 (M1-1)	2	1	オオガ- ボールドウィン ウィリアム
英語科教育演習 (M1-2)	2	1	
英語科教育演習 (M2-1)	2	2	
英語科教育演習 (M2-2)	2	2	
英語科教育演習 (M1-1)	2	1	佐々木 みゆき
英語科教育演習 (M1-2)	2	1	
英語科教育演習 (M2-1)	2	2	
英語科教育演習 (M2-2)	2	2	
英語学演習 (M1-1)	2	1	バックハウス ペート
英語学演習 (M1-2)	2	1	
英語学演習 (M2-1)	2	2	
英語学演習 (M2-2)	2	2	
英語学演習 (M1-1)	2	1	新川 清治
英語学演習 (M1-2)	2	1	
英語学演習 (M2-1)	2	2	
英語学演習 (M2-2)	2	2	

科目名	単位	年次	担当者
英語学演習 (M1-1)	2	1	久野 正和
英語学演習 (M1-2)	2	1	
英語学演習 (M2-1)	2	2	
英語学演習 (M2-2)	2	2	
イギリス文学演習 (M1-1)	2	1	木村 晶子
イギリス文学演習 (M1-2)	2	1	
イギリス文学演習 (M2-1)	2	2	
イギリス文学演習 (M2-2)	2	2	
アメリカ文学演習 (M1-1)	2	1	佐久間 由梨
アメリカ文学演習 (M1-2)	2	1	
アメリカ文学演習 (M2-1)	2	2	
アメリカ文学演習 (M2-2)	2	2	

選択科目

科目名	単位	年次	担当者
英語科教育特論I-1(発音指導の理論と実践)	2	1	折井 麻美子
英語科教育特論I-2(聴解指導の理論と実践)	2	1	折井 麻美子
英語科教育特論II (Language assessment 1)	2	1	澤木 泰代
英語科教育特論II (Language assessment 2)	2	1	澤木 泰代
英語科教育特論III-1 (Second Language Acquisition)	2	1	原田 哲男
英語科教育特論III-2 (Second Language Research)	2	1	原田 哲男
英語科教育特論IV-1 (学習者心理要因)	2	1	マキュワシ 麻哉
英語科教育特論IV-2 (文化と外国語教育)	2	1	マキュワシ 麻哉
英語科教育特殊講義I-1(Research methods in language education 1)	2	1	オオガ-ボールドウィン ウィリアム
英語科教育特殊講義I-2(Research methods in language education 2)	2	1	オオガ-ボールドウィン ウィリアム
英語学特論I-1(Current topics in language and linguistics)	2	1	バックハウス ペート
英語学特論I-2(Understanding language and society)	2	1	バックハウス ペート
英語学特論II-1(Studies in Pragmatics and Discourse Analysis)	2	1	木村 大輔
英語学特論II-2(Research on ELF Interaction)	2	1	木村 大輔
英語学特論III-1 (古英語「文法編」)	2	1	新川 清治
英語学特論III-2 (古英語「読解編」)	2	1	新川 清治
英語科教育特論V-1	2	1	佐々木 みゆき
英語科教育特論V-2	2	1	佐々木 みゆき
英語学特論IV-1 (Phonology)	2	1	ポッペ・クレメンス
英語学特論IV-2 (Morphology)	2	1	ポッペ・クレメンス
英語学特論V-1 (統語論特殊講義 1)	2	1	久野 正和
英語学特論V-2 (統語論特殊講義 2)	2	1	久野 正和
言語学特論 (生成文法特殊講義 1)	2	1	久野 正和
言語学特論 (生成文法特殊講義 2)	2	1	久野 正和
英語科教育特殊講義II(質的研究)-1 (Qualitative research methods in language education II-1)	2	1	片山 晶子
英語科教育特殊講義II(質的研究)-2 (Qualitative research methods in language education II-2)	2	1	八島 智子
英文学特論I-1 (イギリス小説研究 1)	2	1	木村 晶子
英文学特論I-2 (イギリス小説研究 2)	2	1	木村 晶子
英文学特論II(17世紀・18世紀英文学 1)	2	1	桑子 利男
英文学特論II(17世紀・18世紀英文学 2)	2	1	桑子 利男
アメリカ文学特論I-1 (近代アメリカ研究 1)	2	1	<休講>
アメリカ文学特論I-2 (近代アメリカ研究 2)	2	1	<休講>
アメリカ文学特論II-1(20世紀アメリカ小説研究 1)	2	1	佐久間 由梨
アメリカ文学特論II-2(20世紀アメリカ小説研究 2)	2	1	佐久間 由梨
英文学文献研究(Renaissance English Literature 1)	2	1	三好 力
英文学文献研究(Renaissance English Literature 2)	2	1	三好 力
アメリカ文学文献研究 1	2	1	田ノ口 正悟
アメリカ文学文献研究 2	2	1	田ノ口 正悟
英米文学特殊講義 1 (現代文学批評理論を原典で読む1)	2	1	<休講>
英米文学特殊講義 2 (現代文学批評理論を原典で読む2)	2	1	<休講>

(4) 社会科教育専攻
研究指導

科目名	単位	年次	担当者
社会科教育研究指導 (M-1) ※5	0	1	池 俊介
社会科教育研究指導 (M-2) ※5	0	1	
社会科教育研究指導 (M-1)	0	1	近藤 孝弘
社会科教育研究指導 (M-2)	0	1	
歴史学研究指導 (M-1)	0	1	大橋 幸泰
歴史学研究指導 (M-2)	0	1	
歴史学研究指導 (M-1)	0	1	堀越 宏一
歴史学研究指導 (M-2)	0	1	
歴史学研究指導 (M-1)	0	1	小森 宏美
歴史学研究指導 (M-2)	0	1	
歴史学研究指導 (M-1)	0	1	小松 香織
歴史学研究指導 (M-2)	0	1	
歴史学研究指導 (M-1)	0	1	石濱 裕美子
歴史学研究指導 (M-2)	0	1	
歴史学研究指導 (M-1)	0	1	高木 徳郎
歴史学研究指導 (M-2)	0	1	
歴史学研究指導 (M-1)	0	1	大門 正克
歴史学研究指導 (M-2)	0	1	
地理学研究指導 (M-1) ※5	0	1	久保 純子
地理学研究指導 (M-2) ※5	0	1	
地理学研究指導 (M-1) ※5	0	1	箸本 健二
地理学研究指導 (M-2) ※5	0	1	
地理学研究指導 (M-1) ※5	0	1	山内 昌和
地理学研究指導 (M-2) ※5	0	1	
政治学研究指導 (M-1)	0	1	遠藤 美奈
政治学研究指導 (M-2)	0	1	
経済学研究指導 (M-1)	0	1	熊谷 善彰
経済学研究指導 (M-2)	0	1	
経済学研究指導 (M-1)	0	1	藁谷 友紀
経済学研究指導 (M-2)	0	1	
社会学研究指導 (M-1)	0	1	若林 幹夫
社会学研究指導 (M-2)	0	1	
社会学研究指導 (M-1)	0	1	野上 元
社会学研究指導 (M-2)	0	1	
メディア・コミュニケーション学研究指導 (M-1)	0	1	野中 章弘
メディア・コミュニケーション学研究指導 (M-2)	0	1	
メディア・コミュニケーション学研究指導 (M-1)	0	1	伊藤 守
メディア・コミュニケーション学研究指導 (M-2)	0	1	

※5 聴講料5,000円がかかります。

演 習

科目名	単位	年次	担当者
社会科教育演習 (M1-1)	2	1	池 俊介
社会科教育演習 (M1-2)	2	1	
社会科教育演習 (M2-1)	2	2	
社会科教育演習 (M2-2)	2	2	
社会科教育演習 (M1-1)	2	1	近藤 孝弘
社会科教育演習 (M1-2)	2	1	
社会科教育演習 (M2-1)	2	2	
社会科教育演習 (M2-2)	2	2	
歴史学演習 (日本史) (M1-1)	2	1	大橋 幸泰
歴史学演習 (日本史) (M1-2)	2	1	
歴史学演習 (日本史) (M2-1)	2	2	
歴史学演習 (日本史) (M2-2)	2	2	
歴史学演習 (西洋史) (M1-1)	2	1	堀越 宏一
歴史学演習 (西洋史) (M1-2)	2	1	
歴史学演習 (西洋史) (M2-1)	2	2	
歴史学演習 (西洋史) (M2-2)	2	2	
歴史学演習 (西洋史) (M1-1)	2	1	小森 宏美
歴史学演習 (西洋史) (M1-2)	2	1	
歴史学演習 (西洋史) (M2-1)	2	2	
歴史学演習 (西洋史) (M2-2)	2	2	
歴史学演習 (東洋史) (M1-1)	2	1	小松 香織
歴史学演習 (東洋史) (M1-2)	2	1	
歴史学演習 (東洋史) (M2-1)	2	2	
歴史学演習 (東洋史) (M2-2)	2	2	
歴史学演習 (東洋史) (M1-1)	2	1	石濱 裕美子
歴史学演習 (東洋史) (M1-2)	2	1	
歴史学演習 (東洋史) (M2-1)	2	2	
歴史学演習 (東洋史) (M2-2)	2	2	
歴史学演習 (日本史) (M1-1)	2	1	高木 徳郎
歴史学演習 (日本史) (M1-2)	2	1	
歴史学演習 (日本史) (M2-1)	2	2	
歴史学演習 (日本史) (M2-2)	2	2	
歴史学演習 (日本史) (M1-1)	2	1	大門 正克
歴史学演習 (日本史) (M1-2)	2	1	
歴史学演習 (日本史) (M2-1)	2	2	
歴史学演習 (日本史) (M2-2)	2	2	
地理学演習 (自然地理) (M1-1)	2	1	久保 純子
地理学演習 (自然地理) (M1-2)	2	1	
地理学演習 (自然地理) (M2-1)	2	2	
地理学演習 (自然地理) (M2-2)	2	2	
地理学演習 (人文地理) (M1-1)	2	1	箸本 健二
地理学演習 (人文地理) (M1-2)	2	1	
地理学演習 (人文地理) (M2-1)	2	2	
地理学演習 (人文地理) (M2-2)	2	2	
地理学演習 (人文地理) (M1-1)	2	1	山内 昌和
地理学演習 (人文地理) (M1-2)	2	1	
地理学演習 (人文地理) (M2-1)	2	2	
地理学演習 (人文地理) (M2-2)	2	2	

科目名	単位	年次	担当者
政治学演習 (M1-1)	2	1	遠藤 美奈
政治学演習 (M1-2)	2	1	
政治学演習 (M2-1)	2	2	
政治学演習 (M2-2)	2	2	
経済学演習 (M1-1)	2	1	熊谷 善彰
経済学演習 (M1-2)	2	1	
経済学演習 (M2-1)	2	2	
経済学演習 (M2-2)	2	2	
経済学演習 (M1-1)	2	1	藁谷 友紀
経済学演習 (M1-2)	2	1	
経済学演習 (M2-1)	2	2	
経済学演習 (M2-2)	2	2	
社会学演習 (M1-1)	2	1	若林 幹夫
社会学演習 (M1-2)	2	1	
社会学演習 (M2-1)	2	2	
社会学演習 (M2-2)	2	2	
社会学演習 (M1-1)	2	1	野上 元
社会学演習 (M1-2)	2	1	
社会学演習 (M2-1)	2	2	
社会学演習 (M2-2)	2	2	
メディア・コミュニケーション学演習 (M1-1)	2	1	野中 章弘
メディア・コミュニケーション学演習 (M1-2)	2	1	
メディア・コミュニケーション学演習 (M2-1)	2	2	
メディア・コミュニケーション学演習 (M2-2)	2	2	
メディア・コミュニケーション学演習 (M1-1)	2	1	伊藤 守
メディア・コミュニケーション学演習 (M1-2)	2	1	
メディア・コミュニケーション学演習 (M2-1)	2	2	
メディア・コミュニケーション学演習 (M2-2)	2	2	

選択科目

科目名	単位	年次	担当者
社会科教育特論I	2	1	池 俊介
社会科教育特論II	2	1	近藤 孝弘
歴史学特論 I-1 (日本中世史)	2	1	<休講>
歴史学特論 I-2 (日本中世史)	2	1	<休講>
歴史学特論 I I-1 (日本中世史)	2	1	高木 徳郎
歴史学特論 I I-2 (日本中世史)	2	1	高木 徳郎
歴史学特論 I II-1 (日本近世史)	2	1	<休講>
歴史学特論 I I I-2 (日本近世史)	2	1	<休講>
歴史学特論 I V-1 (日本近世史)	2	1	大橋 幸泰
歴史学特論 I V-2 (日本近世史)	2	1	大橋 幸泰
歴史学特論 V-1 (日本近現代史)	2	1	大門 正克
歴史学特論 V-2 (日本近現代史)	2	1	大門 正克
歴史学特論 VI-1 (東洋古代中世史)	2	1	<休講>
歴史学特論 VI-2 (東洋古代中世史)	2	1	<休講>
歴史学特論 VII-1 (東洋近現代史)	2	1	石濱 裕美子
歴史学特論 VII-2 (東洋近現代史)	2	1	石濱 裕美子
歴史学特論 VII I I-1 (中東近現代史)	2	1	<休講>
歴史学特論 VII I I-2 (中東近現代史)	2	1	<休講>
歴史学特論 I X-1 (中東近現代史)	2	1	小松 香織
歴史学特論 I X-2 (中東近現代史)	2	1	小松 香織

科目名	単位	年次	担当者
歴史学特論X-1 (西洋中近世史)	2	1	<休講>
歴史学特論X-2 (西洋中近世史)	2	1	<休講>
歴史学特論XI-1 (西洋中近世史)	2	1	堀越 宏一
歴史学特論XI-2 (西洋中近世史)	2	1	堀越 宏一
歴史学特論XII-1 (西洋近現代史)	2	1	小森 宏美
歴史学特論XII-2 (西洋近現代史)	2	1	小森 宏美
地理学特論I-1 (自然地理)	2	1	<休講>
地理学特論I-2 (自然地理)	2	1	<休講>
地理学特論II-1 (人文地理)	2	1	西山 弘泰
地理学特論II-2 (人文地理)	2	1	箸本 健二
地理学特論III-1 (地誌学)	2	1	野中 健一
地理学特論III-2 (地誌学)	2	1	野中 健一
政治学特論I-1 (行政学)	2	1	藤井 浩司
政治学特論I-2 (行政学)	2	1	藤井 浩司
政治学特論II-1 (政治思想)	2	1	<休講>
政治学特論II-2 (政治思想)	2	1	千野 貴裕
政治学特論III-1 (政治制度)	2	1	<休講>
政治学特論III-2 (政治制度)	2	1	<休講>
政治学特論 I V-1 (憲法)	2	1	遠藤 美奈
政治学特論 I V-2 (憲法)	2	1	遠藤 美奈
経済学特論I-1 (経済理論)	2	1	<休講>
経済学特論I-2 (経済理論)	2	1	<休講>
経済学特論II-1 (金融論)	2	1	熊谷 善彰
経済学特論II-2 (金融論)	2	1	熊谷 善彰
経済学特論III-1 (企業経済学)	2	1	藁谷 友紀
経済学特論III-2 (企業経済学)	2	1	藁谷 友紀
経済学特論 I V-1 (応用ミクロ経済学)	2	1	黒田 祥子
経済学特論 I V-2 (応用ミクロ経済学)	2	1	黒田 祥子
社会学特論I-1 (都市社会学)	2	1	若林 幹夫
社会学特論I-2 (都市社会学)	2	1	若林 幹夫
社会学特論II-1 (文化社会学)	2	1	野上 元
社会学特論II-2 (文化社会学)	2	1	野上 元
メディア・コミュニケーション学特論I-1	2	1	野中 章弘
メディア・コミュニケーション学特論I-2	2	1	野中 章弘
メディア・コミュニケーション学特論II-1	2	1	<休講>
メディア・コミュニケーション学特論II-2	2	1	<休講>
メディア・コミュニケーション学特論III-1	2	1	伊藤 守
メディア・コミュニケーション学特論III-2	2	1	伊藤 守

(5) 数学教育専攻

研究指導

科目名	単位	年次	担当者
数学科教育研究指導 (教科内容・方法) (M-1)	0	1	宮川 健
数学科教育研究指導 (教科内容・方法) (M-2)	0	1	
数学科教育研究指導 (教育情報・評価) (M-1)	0	1	高木 悟
数学科教育研究指導 (教育情報・評価) (M-2)	0	1	
解析学研究指導 (M-1)	0	1	梁 松
解析学研究指導 (M-2)	0	1	
解析学研究指導 (M-1)	0	1	戸松 玲治
解析学研究指導 (M-2)	0	1	
解析学・応用解析学研究指導 (M-1)	0	1	新井 仁之
解析学・応用解析学研究指導 (M-2)	0	1	
代数学研究指導 (M-1)	0	1	村井 聡
代数学研究指導 (M-2)	0	1	
幾何学研究指導 (M-1)	0	1	小森 洋平
幾何学研究指導 (M-2)	0	1	
情報数学研究指導 (M-1)	0	1	高島 克幸
情報数学研究指導 (M-2)	0	1	
トポロジー研究指導 (M-1)	0	1	谷山 公規
トポロジー研究指導 (M-2)	0	1	

演 習

科目名	単位	年次	担当者
数学科教育演習 (M1-2)	2	1	宮川 健
数学科教育演習 (M1-1)	2	1	
数学科教育演習 (M2-1)	2	2	
数学科教育演習 (M2-2)	2	2	
数学科教育演習 (M1-1)	2	1	高木 悟
数学科教育演習 (M1-2)	2	1	
数学科教育演習 (M2-1)	2	2	
数学科教育演習 (M2-2)	2	2	
解析学演習 (M1-1)	2	1	梁 松
解析学演習 (M1-2)	2	1	
解析学演習 (M2-1)	2	2	
解析学演習 (M2-2)	2	2	
解析学演習 (M1-1)	2	1	戸松 玲治
解析学演習 (M1-2)	2	1	
解析学演習 (M2-1)	2	2	
解析学演習 (M2-2)	2	2	
解析学・応用解析学演習 (M1-2)	2	1	新井 仁之
解析学・応用解析学演習 (M1-1)	2	1	
解析学・応用解析学演習 (M2-1)	2	2	
解析学・応用解析学演習 (M2-2)	2	2	
代数学演習 (M1-1)	2	1	村井 聡
代数学演習 (M1-2)	2	1	
代数学演習 (M2-1)	2	2	
代数学演習 (M2-2)	2	2	
幾何学演習 (M1-1)	2	1	小森 洋平
幾何学演習 (M1-2)	2	1	
幾何学演習 (M2-1)	2	2	
幾何学演習 (M2-2)	2	2	

科目名	単位	年次	担当者
情報数学演習 (M1-1)	2	1	高島 克幸
情報数学演習 (M1-2)	2	1	
情報数学演習 (M2-1)	2	2	
情報数学演習 (M2-2)	2	2	
トポロジー演習 (M1-1)	2	1	谷山 公規
トポロジー演習 (M1-2)	2	1	
トポロジー演習 (M2-1)	2	2	
トポロジー演習 (M2-2)	2	2	

選択科目

科目名	単位	年次	担当者
数学科教育特論I-1	2	1	宮川 健
数学科教育特論I-2	2	1	宮川 健
数学科教育特論II-1	2	1	小森 洋平
数学科教育特論II-2	2	1	小森 洋平
数学科教育特論III-1	2	1	高木 悟
数学科教育特論III-2	2	1	高木 悟
数学科教育特論IV-1	2	1	<休講>
数学科教育特論IV-2	2	1	<休講>
解析学特論I-1	2	1	新井 仁之
解析学特論I-2	2	1	<休講>
解析学特論II-1	2	1	梁 松
解析学特論II-2	2	1	梁 松
解析学特論III-1	2	1	戸松 玲治
解析学特論III-2	2	1	戸松 玲治
代数学特論I-1	2	1	<休講>
代数学特論I-2	2	1	<休講>
代数学特論II-1	2	1	村井 聡
代数学特論II-2	2	1	村井 聡
代数学特論III-1	2	1	北川 宜稔
代数学特論III-2	2	1	北川 宜稔
幾何学特論I-1	2	1	<休講>
幾何学特論I-2	2	1	<休講>
幾何学特論II-1	2	1	<休講>
幾何学特論II-2	2	1	<休講>
情報数学特論I-1	2	1	<休講>
情報数学特論I-2	2	1	<休講>
情報数学特論II-1	2	1	<休講>
情報数学特論II-2	2	1	<休講>
情報数学特論III-1	2	1	高木 悟
情報数学特論III-2	2	1	高木 悟
情報数学特論IV-1	2	1	<休講>
情報数学特論IV-2	2	1	<休講>
コンピュータ数学 1	2	1	<休講>
コンピュータ数学 2	2	1	<休講>
トポロジー特論I-1	2	1	谷山 公規
トポロジー特論I-2	2	1	谷山 公規
トポロジー特論II-1	2	1	<休講>
トポロジー特論II-2	2	1	<休講>

(6) 各専攻共通選択科目

A群

科目名	単位	年次	担当者
人間形成論	2	1	眞壁 宏幹
教授・学習論	2	1	奈須 正裕
教育工学及び実習 ※6	2	1	三尾 忠男
生徒・生活指導論(教育分野に関する理論と支援の展開)	2	1	河村 茂雄 他
教育経営論	2	1	<休講>
学校教育法規	2	1	中田 康彦
教師論	2	1	小松 茂久
初等学習指導論	2	1	小林 宏己
初等科学教育論	2	1	佐藤 寛之
発達障害論	2	1	齊藤 宇開
特別支援教育の理論と制度	2	1	梅永 雄二
学校カウンセリングA (心理支援に関する理論と実践)	2	1	河村 茂雄
学校カウンセリングB (心理支援に関する理論と実践)	2	1	河村 茂雄 他
生涯教育論	2	1	<休講>
学校コンピュータ1	2	1	佐久間 拓也
学校コンピュータ2	2	1	佐久間 拓也
高等教育論	2	1	遠藤 健
特別支援教育インターンシップ (大学院)	4	1	梅永 雄二
インクルーシブ教育インターンシップ (大学院)	4	1	本田 恵子
人間理解基盤講座 (心の健康教育に関する理論と実践)	2	1	本田 恵子 他
発達障害の理解と指導実践	1	1	村山 光子
個別カウンセリング理論と実践 (心理支援に関する理論と実践)	2	1	本田 恵子
グループダイナミクスの実践演習 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2	1	<休講>
教育評価の理論と実践	2	1	小山 英恵 他
ソーシャルワーク研究	2	1	山田 祐子
学校メンタルヘルス	2	1	堀 正士
教師が学ぶ情報リテラシー	2	1	吉田 賢史
自然体験教育を通じたグループ活動演習 (心の健康教育に関する理論と実践)	2	1	本田 恵子 他
世界の教育制度・政策研究	2	1	<休講>
教育実践からみた教育法令・法規研究	2	1	坂田 仰
人権教育	1	1	岩永 章
青少年の居場所と文化	2	1	宮古 紀宏
進路多様校の教育課題	1	1	羽入田 眞一
私立学校の教育と経営	2	1	築瀬 誠
持続可能な開発のための教育(ESD)の理論と実践	2	1	丸山 英樹
若者支援の臨床社会学	2	1	<休講>
学校マネジメントの視点で見た学校教育研究	2	1	三村 隆男 他
インクルーシブ教育のシステム構築	1	1	高橋 あつ子

※6 聴講料2,000円がかかります。

B群

科目名	単位	年次	担当者
言語学研究 1	2	1	<休講>
言語学研究 2	2	1	<休講>
英米文化研究 1 (Background Studies 1)	2	1	<休講>
英米文化研究 2 (Background Studies 2)	2	1	<休講>
社会言語学1(Language and social interaction)	2	1	バックハウス ペート
社会言語学2(Doing sociolinguistic research)	2	1	バックハウス ペート
比較文学 1	2	1	<休講>
比較文学 2	2	1	<休講>
心理言語学 A	2	1	<休講>
心理言語学 B	2	1	<休講>
文化史研究	2	1	河原 温
環境論 1	2	1	宇根 寛
環境論 2	2	1	須貝 俊彦
地域研究I	2	1	池口 明子
地域研究II	2	1	加賀美 雅弘
憲法研究	2	1	高橋 義人
情報処理理論 2	2	1	高島 克幸
情報処理理論 1	2	1	高島 克幸
新国語教育講座	2	1	金井 景子 他
英語教育の意義	1	1	肥沼 則明
歴史を学ぶ意義	2	1	小嶋 栄一
競争社会における教育	2	1	藁谷 友紀

C群

科目名	単位	年次	担当者
インターンシップのための教科教育論 (英語科)	2	1	下山 幸成
インターンシップのための教科教育論 (社会科)	2	1	黒川 みどり
インターンシップのための教科教育論 (数学科)	2	1	磯田 正美
海外学術交流 A	2	1	原田 哲男 他
海外学術交流 B	2	1	原田 哲男 他
学級経営インターンシップ (大学院) (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	4	1	河村 茂雄 他
中等国語科インターンシップ (大学院)	4	1	新美 哲彦 他

自由選択科目

科目名	単位	年次	担当者
英語 (Academic Reading & Presentation 1)	2	1	久野 正和
英語 (Academic Reading & Presentation 2)	2	1	久野 正和
英語 (Academic Writing & Presentation 1)	2	1	バックハウス ペート
英語 (Academic Writing & Presentation 2)	2	1	バックハウス ペート
ドイツ語 1	1	1	原 克
ドイツ語 2	1	1	原 克
フランス語 1	1	1	福田 育弘
フランス語 2	1	1	丸川 誠司
中国語 1	1	1	清水 賢一郎
中国語 2	1	1	西田 文信

3. 履修方法（修士課程）

① 修了要件

各専攻において入学の際に定められた研究指導を担当する教員を指導教員とし、論文の作成、研究一般についてはその指導を受けること。

通常2年以上4年以内在学し、32単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および試験に合格しなければならない。

なお、修了所定単位32単位は次のように履修するものとする。

【学校教育専攻】

科目区分		所定 単位数		上 限 単位数		
研究指導		—		—		指導教員の研究指導が4セメスター以上「合格」であること※
演習科目		8		—		指導教員の演習科目（1）[1年次配当]・（2）[2年次配当]を履修
自専攻設置の選択科目		12		—		大学院交流学生（慶應大学）制度の科目は8単位を限度としてこの科目区分に振り替える
共通選択科目	A群	4	8	—		
	B群	—				
	C群	—				
他専攻設置の選択科目		—		4	8	<ul style="list-style-type: none"> 「他専攻設置の選択科目」には、教育学研究科高度教職実践専攻の「分野別選択科目」を含む。 自専攻設置の選択科目として振り替えた大学院交流学生（慶應大学）科目も、本区分の上限単位数8単位に含まれる
他研究科設置の科目						
大学院学生交流連合の科目				—		
大学院交流学生（慶應大学）科目						
修士論文		—		—		審査および試験に合格
科目区分ごとの「所定単位数」の合計		28				

修了所定単位	32	上記の科目区分ごとの「所定単位数」の合計28単位に加えて、上記科目区分より上限単位数を超えない範囲で単位を取得し、左記の《修了所定単位数》を満たすこと。
--------	----	--

※通年開講の「研究指導」の合格については1科目につき2セメスター合格したものとみなす。

【科目登録時の注意】

- 年間履修制限単位数は36単位とする。
- 演習科目・自専攻設置の選択科目・共通選択科目・他専攻設置の選択科目・他研究科設置の科目・大学院学生交流連合の科目・大学院交流学生（慶應大学）制度の科目は、年間履修制限単位数の対象に含まれる。
- 教育学研究科の自由選択科目、グローバルエデュケーションセンター設置科目および大学院共通設置科目は、修了所定単位に算入されない随意科目扱いのため、年間履修制限単位数の対象に含まれない。

【国語・英語・社会科・数学教育専攻】

科目区分		所定単位数	上限単位数	
研究指導		—	—	指導教員の研究指導が4セメスター以上「合格」であること※
演習科目		8	—	指導教員の演習科目(1)[1年次配当]・(2)[2年次配当]を履修
学校教育専攻設置の選択科目		4	8	
自専攻設置の 選択科目	教科教育特論	4	1 2	大学院交流学生(慶應大学)制度の科目は8単位を限度としてこの科目区分の単位として扱う
	教科教育特論以外の 選択科目	—		
共通選択科目	A群	4	8	
	B群	—		
	C群			
他専攻設置の選択科目		—	4	<ul style="list-style-type: none"> ・「他専攻設置の選択科目」には、教育学研究科高度教職実践専攻の「分野別選択科目」を含む。 ・自専攻設置の選択科目として振り替えた大学院交流学生(慶應大学)科目も、本区分の上限単位数8単位に含まれる
他研究科設置の科目				
大学院学生交流連合の科目			—	
大学院交流学生(慶應大学)科目				
修士論文		—	—	審査および試験に合格
科目区分ごとの「所定単位数」の合計		2 8		

修了所定単位	3 2	上記の科目区分ごとの「所定単位数」の合計28単位に加えて、上記科目区分より上限単位数を超えない範囲で単位を取得し、左記の《修了所定単位数》を満たすこと。
--------	-----	--

※通年開講の「研究指導」の合格については1科目につき2セメスター合格したものとみなす。

【備考】

○教科教育特論は、以下の科目を指す。

- ・国語教育専攻：国語科教育特論1、国語科教育特論2、国語科教育特論3、国語科教育特論4
- ・英語教育専攻：英語科教育特論Ⅰ、英語科教育特論Ⅱ、英語科教育特論Ⅲ、英語科教育特論Ⅳ
- ・社会科教育専攻：社会科教育特論Ⅰ、社会科教育特論Ⅱ
- ・数学教育専攻：数学科教育特論Ⅰ、数学科教育特論Ⅱ、数学科教育特論Ⅲ、数学科教育特論Ⅳ

【科目登録時の注意】

- (1) 年間履修制限単位数は36単位とする。
- (2) 演習科目・学校教育専攻設置の選択科目・自専攻設置の選択科目・共通選択科目・他専攻設置の選択科目・他研究科設置の科目・大学院学生交流連合の科目・大学院交流学生(慶應大学)制度の科目は、年間履修制限単位数の対象に含まれる。
- (3) 教育学研究科の自由選択科目、グローバルエデュケーションセンター設置科目および大学院共通設置科目は、修了所定単位に算入されない随意科目扱いのため、年間履修制限単位数の対象に含まれない。

② 現職教員等の学生の履修方法の特例

- (1) 教育上特別に必要があると認められる場合には、特定の時間または時期において、適当な方法により授業または研究指導を行うことがある。
- (2) 上記の方法による履修を希望する学生は、入学志願の際その旨を申し出なければならない。
- (3) 特例の適用を受けた学生は、第1年次は通常の状態による授業および研究指導を受け、第2年次は指導教員の指示に従って定期的に研究指導を受けなければならない。

③ 学年延長者の科目の選択と履修について

学年延長者においても必ず所定の期間内に、授業科目および研究指導の科目登録を行わなければならない。

- (1) 修士論文のみを残す者であっても、指導教員の研究指導を必ず科目登録すること。
- (2) 不足単位のある者は、所定の単位を充足するよう科目登録すること。
- (3) 次の要件を満たした者については、9月15日付で修士の学位を授与することができる。
 - ① 修士論文提出に関する要件を具備することができなかつた者が、次年度の9月までにその要件を満たしたとき。
(修了できなかった年度に「修士論文計画書」を提出していることが前提)
 - ② 所定の単位不足(6単位以内の不足であること)により修了要件を満たすことができなかつた者が、次年度、春学期終了科目の単位を修得することにより修了要件を満たしたとき。

④ 入学前または在学中の留学により修得した単位の扱い

(1) 入学前：

- ① 本研究科に正規学生として入学する前に本大学大学院または他大学大学院(外国の大学の大学院を含む)において正規学生もしくは科目等履修生として修得した科目のうち、内容が本研究科設置科目(研究指導、演習科目および実験実習を伴う科目を除く)に該当すると認められる科目、および本研究科の科目等履修生として修得した科目について、本研究科運営委員会が認めた場合に限り、8単位を限度として、該当する科目の科目区分に修了に必要な単位として充当することができる。
- ② 本研究科に正規学生として入学する前に、本学教育学部の「先取り履修制度」によって取得した科目については、本研究科運営委員会が認めた場合に限り、16単位を限度(上記①による単位数を含めて16単位が上限)として、該当する科目の科目区分に修了に必要な単位として充当することができる。
- ③ 上記①②の単位認定を希望する場合は、科目登録時に認定希望者の申請により行う。なお、本研究科修士課程入学後に入学前修得単位として認定された科目を履修することはできない。また、本研究科修士課程入学後に単位修得した科目を入学前修得単位として認定することはできない。

(2) 在学中：

在学中の正規学生が留学先等で修得した単位については、留学先大学での受入資格・目的・学習内容が、大学院学生レベル(GRADUATE)であり、内容が本研究科設置科目(研究指導・演習・実験実習を伴う科目を除く)に該当すると認められる科目について、本研究科運営委員会が認めた場合に限り、10単位を限度(入学時に、本研究科以外で修得した科目を単位認定している場合、それを含めて10単位が上限)として該当する科目の科目区分に修了に必要な単位として充当することができる。

なお、既に本研究科において単位を修得している科目と同一内容の科目は除く。

また、語学研修が目的の留学などの場合は、単位認定の対象とはしない。

⑤. 単位の実質化を図るための対応について

単位制度とは、一定の基準に従って授業科目を履修し、試験等に合格することによって、その授業科目の単位が付与される制度です。本学の各授業科目の単位数は、早稲田大学学則（早稲田大学大学院学則）により、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。授業時間数は、授業の方法に応じて、以下の表のとおり定められており、毎週1コマで14週実施される授業時間数を本学では30時間とみなしています（7週の場合は15時間とみなしています）。

種別	1単位あたりに必要となる授業時間数
講義・演習	15時間から30時間までの範囲で各研究科が定める時間数
実験、実習および実技	30時間から45時間までの範囲で各研究科が定める時間数

そのため、2単位科目の場合90時間に相当する内容の学修が必要となり、例えば講義科目（毎週1コマを14週）で2単位を修得するためには、授業時間数である30時間に加え、授業時間以外に約60時間に相当する内容の学修を行う必要があります。したがって、14週の授業に対して毎回概ね4時間程度の内容に相当する授業時間外の学修（予習・復習等）が必要となります。

このように、単位修得のためには、授業時間だけでなく、授業時間外にも学修時間を確保する必要があるため、1年間に登録する単位数には十分に留意することが必要です。なお、本学では、卒業（修了）必要単位に算入する科目のみならず、自由科目、随意科目等、卒業（修了）必要単位に算入しない科目を含めて、1年間に登録できる単位数の目安を50単位としています。ただし、本研究科では、夏季・冬季・春季集中科目を除外して1年間の登録単位数を算出することとしています。

⑥. 学位論文提出の条件としての研究倫理教育について

学位論文提出の条件として、本学では研究倫理教育の受講を必須としていく方針があり、修士課程では2023年度入学者は推奨、2024年度以降入学者は必須となる。教育学研究科では、日本学術振興会の「eL CoRE」<https://elcore.jsps.go.jp/top.aspx>（日・英）の内容を、「科学の健全な発展のために 一誠実な科学者の心得」（日・英）を読んだうえで、オンデマンドコンテンツを視聴することを条件としている。大学院生向けに作成されている「大学院生向け」を推奨するが、「研究者向け」を指定することも可能とする。またグローバルエデュケーションセンター設置科目「学術・研究公正概論（人文社会科学系）」もしくは「学術・研究公正概論（生命・理工系）」（日・英）を履修することでも可とする。

4. 教育職員免許状取得について

① 教育学研究科修士課程で取得できる教育職員免許状の種類及び教科一覧

専攻名	免許状の種類	免許状の教科
学校教育専攻	小学校教諭専修免許状	
	中学校教諭専修免許状	国語、社会、数学、理科、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語
	高等学校教諭専修免許状	国語、書道、地理歴史、公民、数学、情報、理科、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語
国語教育専攻	中学校教諭専修免許状	国語
	高等学校教諭専修免許状	国語、書道
英語教育専攻	中学校教諭専修免許状	英語
	高等学校教諭専修免許状	英語
社会科教育専攻	中学校教諭専修免許状	社会
	高等学校教諭専修免許状	地理歴史、公民
数学教育専攻	中学校教諭専修免許状	数学
	高等学校教諭専修免許状	数学、情報

② 専修免許状取得の前提条件

本研究科修士課程にて、専修免許状を取得する場合は、以下の前提条件のいずれかを満たしている必要がある。

- ① 本研究科入学以前に、教育職員免許法第5条別表第1により、同一学校種・教科の一種免許状を取得していること。
- ② 教育職員免許法第5条別表第1により、同一学校種・教科の一種免許状取得のための所要資格を満たしていること。

上記の前提条件を有しない場合は、研究科長および指導教員が正規の授業に支障がないと認めた場合、教育学部の教職課程科目等履修生として別途出願し、入学が許可された場合は、不足している単位の修得をめざすことができる。詳細は、入学手続き時に配付する書類で確認すること。

③ 専修免許状取得のための履修方法

取得済みの一種免許状と「大学が独自に設定する科目」を24単位以上取得し、本研究科修士の学位を得ることにより、「①教育学研究科で取得できる免許状の種類及び教科一覧」の各専攻に該当する学校種および教科の中で、取得済みの一種免許状と「同一学校種・教科」の専修免許状が取得できる。

④ 教育職員免許状の申請

教育職員免許状の申請には、個人申請と一括申請の2つの方法がある。

○個人申請

住民登録地の都道府県教育委員会に申請をする方法。ただし、教員の採用が内定している場合は、採用校の所在する都道府県の教育委員会へも申請できる。

○一括申請

3月の修了予定者に限り、大学がとりまとめて申請を代行する方法。学位記授与式当日に教育職員免許状を手渡しする。ただし、教育職員免許状の取得方法によっては、一括申請できない場合もあるので、詳細は教職支援センターまで問い合わせること。

⑤ その他

教育職員免許状は原則として再交付されない。その代わりに、教育職員免許状を授与している旨の事実を証明する「教育職員免許状授与証明書」を、免許状を発行した都道府県教育委員会で申請することができる。手続き方法の詳細は免許状を発行した都道府県教育委員会へ問い合わせること。

IV. 教育学研究科博士後期課程案内

1. 博士後期課程の構成と特徴

本研究科の博士後期課程は、教育基礎学専攻と教科教育学専攻の2専攻から構成されています。教育基礎学専攻は、教育学・社会教育学・教育心理学・初等教育学の4学問領域から構成されます。教科教育学専攻は、国語科教育学・国語科内容学、英語科教育学・英語科内容学、社会科教育学・社会科内容学、数学科教育学・数学科内容学の各教科領域で構成され、教科教育とそれを支える諸学について、多彩な研究指導および研究演習が設けられています。本課程からはすでに相当数の博士学位取得者を送り出しており、また大学教員をはじめとする研究職に就く者も増え続けています。

本課程では専門的学術研究者、教育専門職の指導者、さらには高度な専門職業人たるべき人材が共に学ぶ場として、他大学の教育学研究科にはあまり例をみない複合的な目的で構想されています。したがって研究指導の目標は、理論と実践のいずれかに埋没することなく、複合的な視野で教育にかかわる研究を深めることにあります。この目標を実現するため、本課程では、学生が自己の研究領域の深化に加えて、幅広い視点や実践的能力をたくわえることをねらいとして、他の研究指導担当教員に指導を受ける「複合履修」が可能であることを大きな特徴としています。

本課程において取得できる学位は、その研究領域の内容に従って、博士（教育学）に加えて、専門性の高い諸学の領域に対して博士（学術）、数学の専門的分野に対して博士（理学）となっています。これらの学位は研究者のみならず、教育の実践的指導者、あるいは専門的職業に携わる社会人をも対象としており、教育を通して社会一般に必要とされる高度な人材の育成に貢献するものとなっており、この点も本課程の特徴の一つとなっています。

本課程の各専攻の概要は以下のとおりです。

a. 教育基礎学専攻

教育学・社会教育学・教育心理学・初等教育学の四つの学問領域からなり、いずれの領域でも、理論研究や実践的研究を深めるための多彩な研究指導を開設し、さらにそれに対応する研究演習を配当しています。両者を合わせて履修することにより、理論的研究と実践の統合をめざした学際的研究の道を開くと共に、専門的研究を深化・拡充させた自立した研究者を育成することをめざしています。

また、本専攻に進学した現職教員等にとっては、自己の実践的な知見を一段と高度に理論化する能力の開発が期待でき、高度な専門職業人にとっては、自己の実際の・体験的な知見を広く教育の観点から再構成し、その理論化を進める能力の開発が期待できます。

b. 教科教育学専攻

本専攻は、国語科・英語科・社会科・数学科のそれぞれについて高度な教科教育の理論的・実践的研究を深めるための研究指導を開設していることに加え、それらの教科を支える諸学の専門的研究を深めるために、国語科内容学・英語科内容学・社会科内容学・数学科内容学として、それぞれ多彩な学問領域の研究指導を開設しています。さらに、指導教員以外の演習科目を複合的に履修することを推奨することにより、教科ないしは諸学の専門性を深めつつ、教科教育にとどまらずより幅の広い自立した研究者を育成することをめざしています。

2. 2023年度設置の研究指導・授業科目・担当教員一覧

※担当教員は、2024年度に交替する場合があります。

〔博士後期課程〕

(1) 教育基礎学専攻

研究指導

科目名	単位	年次	担当者
教育学研究指導 (D-1)	0	1	藤井 千春
教育学研究指導 (D-2)	0	1	
教育学研究指導 (D-1)	0	1	三上 敦史
教育学研究指導 (D-2)	0	1	
教育学研究指導 (D-1)	0	1	坂倉 裕治
教育学研究指導 (D-2)	0	1	
教育学研究指導 (D-1)	0	1	根津 朋実
教育学研究指導 (D-2)	0	1	
教育学研究指導 (D-1)	0	1	菊地 栄治
教育学研究指導 (D-2)	0	1	
教育学研究指導 (D-1)	0	1	三尾 忠男
教育学研究指導 (D-2)	0	1	
教育学研究指導 (D-1)	0	1	小松 茂久
教育学研究指導 (D-2)	0	1	
初等教育学研究指導 (D-1)	0	1	河村 茂雄
初等教育学研究指導 (D-2)	0	1	
初等教育学研究指導 (D-1)	0	1	佐藤 隆之
初等教育学研究指導 (D-2)	0	1	
初等教育学研究指導 (D-1)	0	1	大泉 義一
初等教育学研究指導 (D-2)	0	1	
教育心理学研究指導 (D-1)	0	1	堀 正士
教育心理学研究指導 (D-2)	0	1	
教育心理学研究指導 (D-1)	0	1	椎名 乾平
教育心理学研究指導 (D-2)	0	1	
教育心理学研究指導 (D-1)	0	1	坂爪 一幸
教育心理学研究指導 (D-2)	0	1	
教育心理学研究指導 (D-1)	0	1	本田 恵子
教育心理学研究指導 (D-2)	0	1	
教育心理学研究指導 (D-1)	0	1	上淵 寿
教育心理学研究指導 (D-2)	0	1	
教育心理学研究指導 (D-1)	0	1	梅永 雄二
教育心理学研究指導 (D-2)	0	1	
教育学研究指導 (D-1)	0	1	吉田 文
教育学研究指導 (D-2)	0	1	
社会教育学研究指導 (D-1)	0	1	小林 敦子
社会教育学研究指導 (D-2)	0	1	
教育学研究指導 (生涯教育学) (D-1)	0	1	濱中 淳子
教育学研究指導 (生涯教育学) (D-2)	0	1	
社会教育学研究指導 (D-1)	0	1	前田 耕司
社会教育学研究指導 (D-2)	0	1	
社会教育学研究指導 (D-1)	0	1	矢口 徹也
社会教育学研究指導 (D-2)	0	1	

演習

科目名	単位	年次	担当者
教育思想研究演習 (D-1)	2	1	藤井 千春
教育思想研究演習 (D-2)	2	1	
教育制度史研究演習 (D-1)	2	1	三上 敦史
教育制度史研究演習 (D-2)	2	1	
教育哲学研究演習 (D-1)	2	1	坂倉 裕治
教育哲学研究演習 (D-2)	2	1	
教育内容・方法学研究演習 (D-1)	2	1	根津 朋実
教育内容・方法学研究演習 (D-2)	2	1	
教育工学研究演習 (D-1)	2	1	三尾 忠男
教育工学研究演習 (D-2)	2	1	
学校経営学研究演習 (D-1)	2	1	菊地 栄治
学校経営学研究演習 (D-2)	2	1	
教育行財政学研究演習 (D-1)	2	1	小松 茂久
教育行財政学研究演習 (D-2)	2	1	
初等教育学研究演習 (D-1) ※7	2	1	河村 茂雄
初等教育学研究演習 (D-2) ※7	2	1	
初等教育学研究演習 (D-1)	2	1	佐藤 隆之
初等教育学研究演習 (D-2)	2	1	
初等教育学研究演習 (D-1) ※7	2	1	大泉 義一
初等教育学研究演習 (D-2) ※7	2	1	
臨床心理学研究演習 (D-1) ※7	2	1	堀 正士
臨床心理学研究演習 (D-2) ※7	2	1	
教育評価・測定研究演習 (D-1) ※7	2	1	椎名 乾平
教育評価・測定研究演習 (D-2) ※7	2	1	
障害・神経心理学研究演習 (D-1) ※7	2	1	坂爪 一幸
障害・神経心理学研究演習 (D-2) ※7	2	1	
学校心理学研究演習 (D-1) ※7	2	1	本田 恵子
学校心理学研究演習 (D-2) ※7	2	1	
発達・教育心理学研究演習 (D-1) ※7	2	1	上淵 寿
発達・教育心理学研究演習 (D-2) ※7	2	1	
特別支援教育学研究演習 (D-1) ※7	2	1	梅永 雄二
特別支援教育学研究演習 (D-2) ※7	2	1	
教育社会学研究演習 (D-1)	2	1	吉田 文
教育社会学研究演習 (D-2)	2	1	
社会教育学研究演習 (D-1)	2	1	小林 敦子
社会教育学研究演習 (D-2)	2	1	
生涯教育学研究演習 (D-1)	2	1	濱中 淳子
生涯教育学研究演習 (D-2)	2	1	
社会教育学研究演習 (D-1)	2	1	前田 耕司
社会教育学研究演習 (D-2)	2	1	
社会教育学研究演習 (D-1)	2	1	矢口 徹也
社会教育学研究演習 (D-2)	2	1	

※7 聴講料7,500円がかかります。

(2) 教科教育学専攻
研究指導

科目名	単位	年次	担当者
国語科教育学研究指導 (D-1)	0	1	幸田 国広
国語科教育学研究指導 (D-2)	0	1	
国語科教育学研究指導 (D-1)	0	1	菊野 雅之
国語科教育学研究指導 (D-2)	0	1	
国語科内容学研究指導 (D-1)	0	1	松木 正恵
国語科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
国語科内容学研究指導 (D-1)	0	1	松本 直樹
国語科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
国語科内容学研究指導 (D-1)	0	1	新美 哲彦
国語科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
国語科内容学研究指導 (D-1)	0	1	福家 俊幸
国語科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
国語科内容学研究指導 (D-1)	0	1	大津 雄一
国語科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
国語科内容学研究指導 (D-1)	0	1	田渕 句美子
国語科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
国語科内容学研究指導 (D-1)	0	1	内山 精也
国語科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
国語科内容学研究指導 (D-1)	0	1	堀 誠
国語科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
国語科内容学研究指導 (D-1)	0	1	石原 千秋
国語科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
国語科内容学研究指導 (D-1)	0	1	金井 景子
国語科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
国語科内容学研究指導 (D-1)	0	1	五味渕 典嗣
国語科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
国語科内容学研究指導 (D-1)	0	1	和田 敦彦
国語科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
英語科教育学研究指導 (D-1)	0	1	澤木 泰代
英語科教育学研究指導 (D-2)	0	1	
英語科教育学研究指導 (D-1)	0	1	原田 哲男
英語科教育学研究指導 (D-2)	0	1	
英語科教育学研究指導 (D-1)	0	1	折井 麻美子
英語科教育学研究指導 (D-2)	0	1	
英語科教育学研究指導 (D-1)	0	1	オオガ - ボールドウィン ウィリアム
英語科教育学研究指導 (D-2)	0	1	
英語科教育学研究指導 (D-1)	0	1	佐々木 みゆき
英語科教育学研究指導 (D-2)	0	1	
英語科内容学研究指導 (D-1)	0	1	バックハウス ペート
英語科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
英語科内容学研究指導 (D-1)	0	1	新川 清治
英語科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
英語科内容学研究指導 (D-1)	0	1	久野 正和
英語科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
英語科内容学研究指導 (D-1)	0	1	木村 晶子
英語科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
英語科内容学研究指導 (D-1)	0	1	佐久間 由梨
英語科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
社会科教育学研究指導 (D-1) ※8	0	1	池 俊介
社会科教育学研究指導 (D-2) ※8	0	1	

科目名	単位	年次	担当者
社会科教育学研究指導 (D-1)	0	1	近藤 孝弘
社会科教育学研究指導 (D-2)	0	1	
社会科内容学研究指導 (D-1)	0	1	大橋 幸泰
社会科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
社会科内容学研究指導 (D-1)	0	1	堀越 宏一
社会科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
社会科内容学研究指導 (D-1)	0	1	小森 宏美
社会科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
社会科内容学研究指導 (D-1)	0	1	小松 香織
社会科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
社会科内容学研究指導 (D-1)	0	1	石濱 裕美子
社会科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
社会科内容学研究指導 (D-1)	0	1	高木 徳郎
社会科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
社会科内容学研究指導 (D-1) ※8	0	1	久保 純子
社会科内容学研究指導 (D-2) ※8	0	1	
社会科内容学研究指導 (D-1) ※8	0	1	箸本 健二
社会科内容学研究指導 (D-2) ※8	0	1	
社会科内容学研究指導 (D-1) ※8	0	1	山内 昌和
社会科内容学研究指導 (D-2) ※8	0	1	
社会科内容学研究指導 (D-1)	0	1	遠藤 美奈
社会科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
社会科内容学研究指導 (D-1)	0	1	熊谷 善彰
社会科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
社会科内容学研究指導 (D-1)	0	1	藁谷 友紀
社会科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
社会科内容学研究指導 (D-1)	0	1	若林 幹夫
社会科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
社会科内容学研究指導 (D-1)	0	1	野中 章弘
社会科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
社会科内容学研究指導 (D-1)	0	1	伊藤 守
社会科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
社会科内容学研究指導 (D-1)	0	1	大門 正克
社会科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
数学科教育学研究指導 (D-1)	0	1	宮川 健
数学科教育学研究指導 (D-2)	0	1	
数学科教育学研究指導 (D-1)	0	1	高木 悟
数学科教育学研究指導 (D-2)	0	1	
数学科内容学研究指導 (D-1)	0	1	梁 松
数学科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
数学科内容学研究指導 (D-1)	0	1	戸松 玲治
数学科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
数学科内容学研究指導 (D-1)	0	1	小森 洋平
数学科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
数学科内容学研究指導 (D-1)	0	1	高島 克幸
数学科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
数学科内容学研究指導 (D-1)	0	1	村井 聡
数学科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
数学科内容学研究指導 (D-1)	0	1	谷山 公規
数学科内容学研究指導 (D-2)	0	1	
数学科内容学研究指導 (D-1)	0	1	新井 仁之
数学科内容学研究指導 (D-2)	0	1	

※8 聴講料5,000円がかかります。

演習

科目名	単位	年次	担当者
国語科教育研究演習 (D-1)	2	1	幸田 国広
国語科教育研究演習 (D-2)	2	1	
国語科教育研究演習 (D-1)	2	1	菊野 雅之
国語科教育研究演習 (D-2)	2	1	
日本語学研究演習 (D-1)	2	1	松木 正恵
日本語学研究演習 (D-2)	2	1	
古典文学研究演習 (D-1)	2	1	新美 哲彦
古典文学研究演習 (D-2)	2	1	
古典文学研究演習 (D-1)	2	1	松本 直樹
古典文学研究演習 (D-2)	2	1	
古典文学研究演習 (D-1)	2	1	福家 俊幸
古典文学研究演習 (D-2)	2	1	
古典文学研究演習 (D-1)	2	1	大津 雄一
古典文学研究演習 (D-2)	2	1	
古典文学研究演習 (D-1)	2	1	田淵 旬美子
古典文学研究演習 (D-2)	2	1	
古典文学研究演習 (D-1)	2	1	内山 精也
古典文学研究演習 (D-2)	2	1	
古典文学研究演習 (D-1)	2	1	堀 誠
古典文学研究演習 (D-2)	2	1	
近代文学研究演習 (D-1)	2	1	石原 千秋
近代文学研究演習 (D-2)	2	1	
近代文学研究演習 (D-1)	2	1	金井 景子
近代文学研究演習 (D-2)	2	1	
近代文学研究演習 (D-1)	2	1	五味渕 典嗣
近代文学研究演習 (D-2)	2	1	
近代文学研究演習 (D-1)	2	1	和田 敦彦
近代文学研究演習 (D-2)	2	1	
英語科教育研究演習 (D-1)	2	1	オオガ - ボールドウィン ウィリアム
英語科教育研究演習 (D-2)	2	1	
英語科教育研究演習 (D-1)	2	1	佐々木 みゆき
英語科教育研究演習 (D-2)	2	1	
英語科教育研究演習 (D-1)	2	1	澤木 泰代
英語科教育研究演習 (D-2)	2	1	
英語科教育研究演習 (D-1)	2	1	原田 哲男
英語科教育研究演習 (D-2)	2	1	
英語科教育研究演習 (D-1)	2	1	折井 麻美子
英語科教育研究演習 (D-2)	2	1	
英語学研究演習 (D-1)	2	1	バックハウス ペート
英語学研究演習 (D-2)	2	1	
英語学研究演習 (D-1)	2	1	新川 清治
英語学研究演習 (D-2)	2	1	
英語学研究演習 (D-1)	2	1	久野 正和
英語学研究演習 (D-2)	2	1	
アメリカ文学・文化研究演習 (D-1)	2	1	佐久間 由梨
アメリカ文学・文化研究演習 (D-2)	2	1	
イギリス文学・文化研究演習 (D-1)	2	1	木村 晶子
イギリス文学・文化研究演習 (D-2)	2	1	
社会科教育研究演習 (D-1)	2	1	池 俊介
社会科教育研究演習 (D-2)	2	1	
社会科教育研究演習 (D-1)	2	1	近藤 孝弘
社会科教育研究演習 (D-2)	2	1	

科目名	単位	年次	担当者
歴史学研究演習 (D-1)	2	1	大門 正克
歴史学研究演習 (D-2)	2	1	
歴史学研究演習 (D-1)	2	1	大橋 幸泰
歴史学研究演習 (D-2)	2	1	
歴史学研究演習 (D-1)	2	1	堀越 宏一
歴史学研究演習 (D-2)	2	1	
歴史学研究演習 (D-1)	2	1	小森 宏美
歴史学研究演習 (D-2)	2	1	
歴史学研究演習 (D-1)	2	1	小松 香織
歴史学研究演習 (D-2)	2	1	
歴史学研究演習 (D-1)	2	1	石濱 裕美子
歴史学研究演習 (D-2)	2	1	
歴史学研究演習 (D-1)	2	1	高木 徳郎
歴史学研究演習 (D-2)	2	1	
地理学研究演習 (D-1)	2	1	久保 純子
地理学研究演習 (D-2)	2	1	
地理学研究演習 (D-1)	2	1	箸本 健二
地理学研究演習 (D-2)	2	1	
地理学研究演習 (D-1)	2	1	山内 昌和
地理学研究演習 (D-2)	2	1	
政治学研究演習 (D-1)	2	1	遠藤 美奈
政治学研究演習 (D-2)	2	1	
経済学研究演習 (D-1)	2	1	熊谷 善彰
経済学研究演習 (D-2)	2	1	
経済学研究演習 (D-1)	2	1	藁谷 友紀
経済学研究演習 (D-2)	2	1	
社会学研究演習 (D-1)	2	1	若林 幹夫
社会学研究演習 (D-2)	2	1	
社会学研究演習 (D-1)	2	1	野上 元
社会学研究演習 (D-2)	2	1	
メディア・コミュニケーション学研究演習 (D-1)	2	1	野中 章弘
メディア・コミュニケーション学研究演習 (D-2)	2	1	
メディア・コミュニケーション学研究演習 (D-1)	2	1	伊藤 守
メディア・コミュニケーション学研究演習 (D-2)	2	1	
数学科教育研究演習 (D-1)	2	1	宮川 健
数学科教育研究演習 (D-2)	2	1	
数学科教育研究演習 (D-1)	2	1	高木 悟
数学科教育研究演習 (D-2)	2	1	
解析学・応用解析学研究演習 (D-1)	2	1	新井 仁之
解析学・応用解析学研究演習 (D-2)	2	1	
解析学研究演習 (D-1)	2	1	梁 松
解析学研究演習 (D-2)	2	1	
解析学研究演習 (D-1)	2	1	戸松 玲治
解析学研究演習 (D-2)	2	1	
代数学研究演習 (D-1)	2	1	村井 聡
代数学研究演習 (D-2)	2	1	
幾何学研究演習 (D-1)	2	1	小森 洋平
幾何学研究演習 (D-2)	2	1	
情報数学研究演習 (D-1)	2	1	高島 克幸
情報数学研究演習 (D-2)	2	1	
トポロジー研究演習 (D-1)	2	1	谷山 公規
トポロジー研究演習 (D-2)	2	1	

3. 履修方法（博士後期課程）

① 通則

- (1) 研究指導のうち、自己の専攻する専門分野から1研究指導を選定する。
- (2) 学生の研究指導を担当する教員を指導教員とし、論文の作成、研究一般についてはその指導を受けること。
- (3) 前項のほか、指導教員が必要と認めるときは、所定の単位外にその指定する授業科目も履修すること。

② 修了要件

以下のすべてを満たすこと。

- (1) 3年以上在学すること（在学期間に未納学費がないこと）。
※優れた研究業績を上げた場合、早期に修了を申請できる場合がある。「優れた研究業績」として申請できる内容の研究業績があるかどうかについては、指導教員に相談すること。
- (2) 「指導教員の担当する演習科目」を4単位修得すること。
※毎年度春学期に教育学研究科事務所が該当科目を自動登録する。
- (3) 所要の研究指導が6セメスター以上「合格」であること。
※研究指導の可否の判断基準
指導教員が博士論文の完成へ向けた研究経過を確認し、適切な経過であると判断した場合、そのセメスターにおける研究指導を合格としPと評価する。
- (4) 所要の研究指導を終了すること。
※(3)により所要の研究指導が6セメスター以上「合格」であっても、所要の研究指導が継続される場合がある。
この点については継続的に指導教員に確認を取りながら研究を進める必要がある。
- (5) 上記(1)～(4)までを満たしたうえで、博士論文を提出し博士論文の審査および試験に合格すること。ただし、早稲田大学大学院学則第14条ただし書きに該当する場合には、上記(1)が短縮され、かつ短縮期間に応じ(3)が軽減される場合がある。

③ 履修方法

毎年度、指導教員の担当する「研究指導」および「演習科目」を履修する。

〈大学院教育学研究科博士後期課程では、学生が自己の研究領域の深化に加えて、幅広い視点や実践的能力を蓄えることをねらいとして複合履修（複数の教員から指導を受けること）を推奨しています。指導の受け方は、専攻ごとの運用によりますので、研究指導教員の指導に沿って指導を受けてください。〉

④ 現職教員および専門職業人等の学生の履修方法の特例

- (1) 教育上特別に必要があると認められる場合には、特定の時間または時期において、適当な方法により授業または研究指導を行うことがある。
- (2) 上記の方法による履修を希望する学生は、入学志願の際その旨を申し出なければならない。

⑤ 課程による博士学位について

(1) ②の修了要件すべてを満たした者に対し、以下の博士学位が授与される。

専攻	博士学位名	
教育基礎学専攻	博士（教育学）	博士（学術）
教科教育学専攻	博士（教育学）	
数学内容学研究指導 領域	博士（理学）[注]	

[注]：2007年度入学者から適用。2006年度以前の入学者は「博士（教育学）」となる。

(2) ②の修了要件の（1）から（4）までを満たした者のうち、博士論文を提出しないで本研究科博士後期課程を退学した者（※1）は、退学した日から起算して3年以内（※2）に限り、本研究科運営委員会の許可を経て、博士論文を提出し、課程による博士として審査および試験を受けることができる。

※1：研究指導終了による措置退学となる。

※2：退学した日から起算して3年以内に、博士論文受理の「可・否」を決定する研究科運営委員会が開催されることが条件となる。

【ご参考】

②の修了要件の（1）から（4）までのうち1つでも満たさずに任意に退学しようとする場合は、任意退学の手続が必要です。また、上記の場合において所定の在学可能年数（6年間）を満了する場合は、在学年数満了による措置退学となります。

在学年数満了による措置退学になった場合で、③の修了要件の（2）および（3）を満たし、かつ、引き続き大学院において博士論文作成のための研究指導を受けようとする者は、選考のうえ、研究生として入学を許可されることがあります（研究生についてはIX 研究生を参照）。研究生としての在籍期間に所要の研究指導を終えた場合、本研究科博士後期課程を在学期間満了により退学した日（研究生としての在籍を終えた日ではない）から起算して3年以内（退学した日から起算して3年以内に、博士論文受理の「可・否」を決定する研究科運営委員会が開催されることが条件となる）に限り、本研究科運営委員会の許可を経て、博士論文を提出し、課程による博士として審査および試験を受けることができます。

【注意】未納学費がある場合は、学費未納による抹籍となり、学費が未納である学期の在籍は認められない。

(3) 学位審査の申請手続き等については、各自の指導教員の指導に従うこと。

なお、学位審査の流れはおおむね以下のとおりである。

1	博士論文構想発表会における口頭発表	専攻主催で博士論文提出の1年ほど前に実施
2	予備審査	指導教員
3	専攻による審査	専攻会議
4	受理の「可・否」決定	研究科運営委員会
5	審査会 ・博士論文審査 ・公開発表会 ・その他	審査員
6	「合・否」判定	研究科運営委員会

※「合・否」の判定は、受理をした研究科運営委員会の開催月から原則として1年以内に開催される研究科運営委員会で行う。

(4) 博士後期課程における学位取得プロセスの概要

1. 指導教員（正・副）の決定

- ①教育学研究科運営委員会（以下、運営委員会と略記する）は、入学試験合否判定時に、合格者の指導教員（正）を決定する。
- ②1年次において指導教員（副）1人を選び、11月の運営委員会で承認を受ける。なお、指導教員（副）は研究科運営委員であることを原則とする（必要に応じて、本学内の専任教員を選ぶことができる）。指導教員（副）は、当該学生の博士論文審査員になるものとする。

2. 博士論文執筆に向けての指導

学生は、指導教員（正・副）のもとで博士論文の提出に向け、その構想・構成・執筆等の指導を受ける。また、指導教員（正・副）は学内外の学会誌および研究誌等への論文執筆・投稿、学内外の学会等における研究発表などの指導・支援にあたる。

3. 博士論文計画書・研究経過報告書・研究指導報告書の提出

- ①学生は、指導教員（正）のもとに「博士論文計画書」を作成し、1年次の11月末日までに研究科事務所に提出する。
- ②学生は、博士論文研究経過報告書を作成し、指導教員（正）の承認を得て、毎年秋学期授業終了日までに研究科事務所に提出する。
- ③指導教員（正）は、当該学生の研究指導終了時に博士論文研究報告書を作成し、研究科事務所に提出する。

4. 博士論文構想発表会

- ①研究科の各専攻は、学生への論文指導を目的として、必要に応じて年1回か2回、博士論文構想発表会を開催する。
- ②博士論文提出予定者は、提出する1年ほど前までに博士論文構想発表会を学内公開で行うことを原則とする。

5. 博士論文の受理・審査・判定

博士論文の受理・審査・判定については、早稲田大学大学院学則、早稲田大学学位規則および教育学研究科博士學位論文審査に関する内規に従って行う。

(5) 課程内での博士学位取得を想定した場合のスケジュールモデル

1年次	4月	指導教員（正）による研究指導の開始	<p>★以下の4項目については、博士論文提出時まで完了していること。</p> <p>○オンデマンド型授業科目「研究倫理概論」等（※）を視聴すること。</p> <p>○論文を提出する1年ほど前までに、博士論文構想発表会を原則として学内公開で開催すること。</p> <p>○全国的もしくは国際的な学会での研究発表を、原則として1回以上行うこと。</p> <p>○学術誌（査読付き）に掲載された論文1編以上の業績をもつこと（掲載決定を含む）。</p>
	11月	運営委員会での指導教員（副）を承認	
	11月末	博士論文計画書の提出	
	秋学期授業終了日	博士論文研究経過報告書の提出	
2年次以降※	秋学期授業終了日	博士論文研究経過報告書の提出	
博士論文提出年度	6月～12月	博士論文の提出（同時に、博士論文研究経過報告書の提出、指導教員（正）による博士論文研究指導報告書の提出）	
	6月～翌年1月	運営委員会で博士論文の受理を判定	
	6月～翌年2月	博士論文を審査。この間、公開発表会で発表を行う。	
	9月～翌年2月	運営委員会で博士論文の合否を判定	
	3月下旬（26日頃）	博士学位記授与	

※学位論文提出の条件として、本学では研究倫理教育の受講を必須としている。教育学研究科では、日本学術振興会の「eL CoRE」 <https://elcore.jsps.go.jp/top.aspx>（日・英）の内容を「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」（日・英）を読んだうえで、オンデマンドコンテンツを視聴することを条件としている。大学院生向けに作成されている「大学院生向け」を推奨するが、「研究者向け」を指定することも可能とする。またグローバルエデュケーションセンター設置科目「学術・研究公正概論（人文社会科学系）」もしくは「学術・研究公正概論（生命・理工系）」（日・英）を履修することでも可とする。

(6) 博士論文提出要件

【要件】

- ・「Ⅲ-2 履修方法（博士後期課程）」記載の修了要件の（1）から（4）までを満たした者。
- ・博士論文提出時までに、全国もしくは国際的な学会での研究発表を、原則として1回以上行うこと。
- ・博士論文提出時までに、学術誌（査読付き）に掲載された論文1編以上の業績をもつこと（掲載決定を含む）。

なお、各専攻では上記の提出要件を基本として、独自に要件を設定している場合もあるので、その詳細は指導教員に尋ねること。

◆その他案内

1. 科目等履修生

本研究科は、正規の学生の修学を妨げない限り、選考の上、委託履修生・一般履修生の入学を許可する。

委託履修生とは、官公庁、外国政府、学校、研究機関、民間団体等の委託に基づき、本研究科において授業科目を履修しようとする者、または特定課題についての研究指導を受けようとする者で入学を許可された者をいう。

一般履修生とは、本研究科において授業科目を履修しようとする者で、入学を許された者をいう。

委託履修生または一般履修生に対しては、履修した科目について試験を受け、合格したときは、単位を授与し、本人の請求によって証明書を交付する。

2. 各種奨学金について

大学院の奨学金制度には、本大学独自の大隈記念奨学金、小野梓記念奨学金、大学院博士後期課程研究者養成奨学金、指定寄附に基づく奨学金などの学内奨学金をはじめ、日本学生支援機構奨学金・民間団体奨学金等の学外奨学金制度があります。

教育学研究科で受給可能な、主な奨学金制度の種類と概要は以下のとおりです。

※2023年4月時点の情報です。内容は変更になる場合があります。

※詳細については、入学後に配付する『奨学金情報 Challenge』（早稲田大学学生部奨学課発行）を参照してください。

主な奨学金制度の種類と概要

【日本人学生】（在留資格が「永住者」「永住者の配偶者等」を含む）

奨学課ホームページ <https://www.waseda.jp/inst/scholarship/>

区分	奨学金名	対象	給付・貸与	奨学金額
学内奨学金	大隈記念奨学金	修士	給付	年額 400,000 円
	小野梓記念奨学金	修士	給付	年額 400,000 円
	校友会給付奨学金	修士	給付	年額 400,000 円
	大学院博士後期課程研究者養成奨学金	博士	給付	年額 250,000～400,000 円程度 ただし数学科内容学は 年額 400,000～600,000 円程度
学外奨学金	日本学生支援機構第一種奨学金 (無利子)	修士・博士	貸与	※1
	日本学生支援機構第二種奨学金 (有利子)	修士・博士	貸与	※1

※1 詳細は独立行政法人日本学生支援機構ウェブサイトをご参照ください。

【外国人留学生】(在留資格が「永住者」「永住者の配偶者等」以外のもの)

留学センターホームページ <https://www.waseda.jp/inst/cie/life/aid>

区分	奨学金名	対象	給付・貸与	奨学金額
学内奨学金	私費外国人留学生授業料減免奨学金	修士	給付	年間授業料の最大半額を減免
	小野梓記念外国人留学生奨学金	修士・博士	給付	年額 400,000 円
	大学院博士後期課程研究者養成奨学金	博士	給付	年額 250,000～400,000 円程度 ただし数学科内容学は 年額 400,000～600,000 円程度
学外奨学金	文部科学省国費外国人留学生 (国内採用)	修士・博士	給付	※2
	文部科学省外国人留学生 学習奨励費	修士・博士	給付	月額 48,000 円

※2 詳細は文部科学省ウェブサイトをご参照ください。



お問合せのある方は、教育学研究科入試係までお問い合わせください。

住所：〒169-8050 新宿区西早稲田 1-6-1 16号館 2階

電話：03-3208-0529 FAX：03-3202-2549

E-mail：gse-admission@list.waseda.jp

URL：https://www.waseda.jp/fedu/gedu/

[事務所開室時間]

- ・月曜日～金曜日 10:00 ～ 16:00
(夏季、冬季授業休止期間中の土日は閉室)
- ・日曜、祝日 (授業実施日は開室)
- ・その他大学が定める休業日は閉室

※来室時は研究科 Web サイトにて最新情報をご確認ください。